

令和4年度 (6・7月実施)
佐久市スマホ、タブレット、ゲーム機等に関する
児童・生徒・園学校保護者アンケート実施結果



子どもは電子メディア機器とどんなつきあいをしているの？ ～児童生徒・園学校保護者対象アンケートの結果と考察～

佐久市教育委員会
Saku Kids メディア Safety

令和4年は、新型コロナウイルス感染対策を行いながら、日常の生活や学校・園での学習活動、行事を止めないよう工夫をして、どうしたら活動できるか取り組まれていることと思います。さらに、昨年度、国のGIGAスクール構想により、小中学校に1人1台のタブレット型学習用端末が導入され、佐久市内すべての市立小中学校に端末を配備され学習の形態も大きく変わりつつあります。このことにより、児童生徒が電子メディアに触れる機会は増加し、より日常的なものとなってきております。また、インターネットを利用した学習環境の整備が進み、益々メディアを利用して人とのコミュニケーションの学習時間は増え、より進んでいくと考えられます。

このような状況から、情報モラルに始まり、利用上のトラブルや健康被害、依存症などの問題への対策が、これまで以上に家庭や学校、社会でも必須の状況であります。

県下でも、アンケート調査を実施する市町村や学校がさらに増加し、昨年度同様、保護者アンケートも県から統一した内容で実施の依頼がありました。「Saku kids メディア Safety」の活動を中止に、佐久市教育委員会としても、佐久市の状況把握と国や県の状況も踏まえつつ、電子メディアとの適切な付き合い方について、これからも各種の取り組みを行いたいと考えています。

1 アンケートの目的

- (1) 幼児、児童、生徒が電子メディア機器とどのような接触をしているのか、またそれについて各家庭でどのような対応をしているのか、その実態を把握する。
- (2) 各園、学校、PTAが自分たちの実態を知り、自分たちの課題として捉え改善に向けた行動に移す。
- (3) 市全体の状況把握をし、全市的な啓発の取り組みを検討する。

2 実施時期

令和3年6月～7月

3 対象学年等について

<小学校> 3年生以上
<中学校> 全生徒
<保護者> 保育園・幼稚園の保護者、小中学生保護者

<アンケート結果と考察の目次>

(1) 小中学生アンケートの結果から	P 2 ～ 11
(2) 小中学生保護者アンケートの結果から	P 12 ～ 26
(3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から	P 27 ～ 32

4 アンケート内容・実施方法について

- (1) 児童生徒は学校において一斉アンケート。1人1台のタブレット端末を使って、グーグルフォームにてアンケートを回答。実施所要時間は発達段階にもよるが、通常15分程度。実施者が一斉に読み上げながら進めることを理想とした。

(2) 園および小中学生の保護者へは電子メール配信システム「オクレンジャー」でアンケートURLを配信し、Googleフォームにより実施、回答を依頼した。

5 回答が得られた人数・回収率（小数点以下四捨五入）

<児童生徒>

小学校	3年	746人	4年	673人	5年	738人	6年	824人	計	2981人
									2981(回答数)/3473(全児童数)	回収率 86%
中学校	1年	689人	2年	701人	3年	789人			計	2179人
									2179(回答数)/2429(全生徒数)	回収率 90%

<保護者>

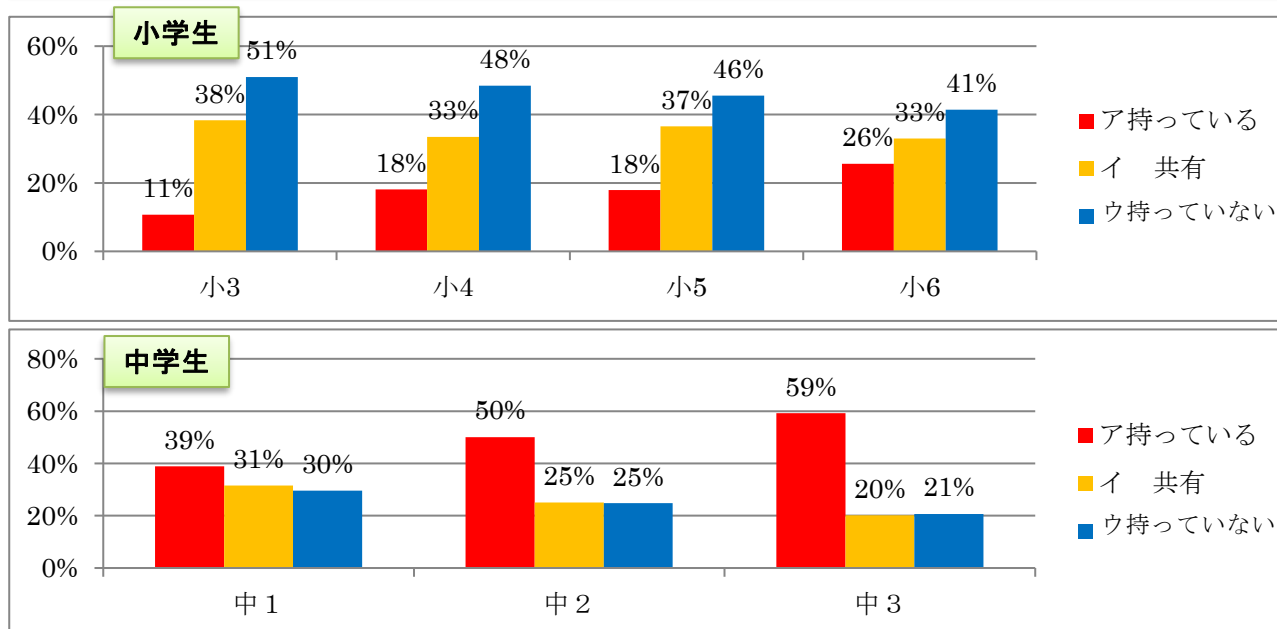
小学校	1年	669人	2年	624人	3年	662人	4年	651人	5年	680人	6年	742人	計	4028人	4028(回答数)/5107(全児童数)	回収率 79%
中学校	1年	628人	2年	635人	3年	673人							計	1936人	1936(回答数)/2429(全生徒数)	回収率 80%
保育園・幼稚園			未満児	190人	年少	212人	年中	214人	年長	215人			計	831人	831(回答数)/2629(全園児数)	回収率 30%

6 結果と考察

注：百分率（%）は小数点第1位を四捨五入しているため、合計が100でない場合があります

(1) 小中学生アンケートの結果から

問① あなたは、自分が使えるスマホを持っていますか？

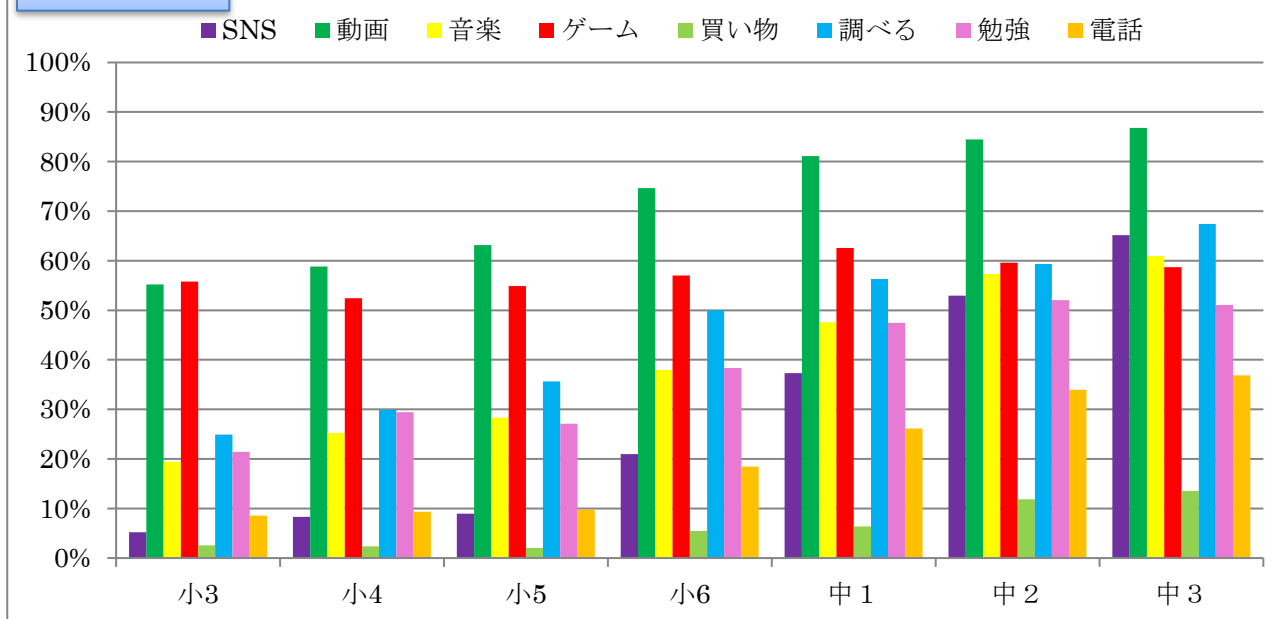


小学生では自分所有のスマホは1割～2割強程度、中学生においては3割強から6割弱程度である。各学年次について、昨年度の所有率と比較したところ、小学生高学年での所持率は各学年で2%増えていた。中学生では、1年が昨年度小学校6年時に24%が39%と15%の増加、2年生は、昨年度36%から46%と10%の増加、3年生は46%から59%と13%の増加であった。中学生の自分所有の割合がどの学年も学年が上がるごとに1～2割増えており、中学生のスマホ所持率は高くなっている。

問② スマホやパソコン、タブレットでよく使うのは何ですか？

※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。

複数回答あり

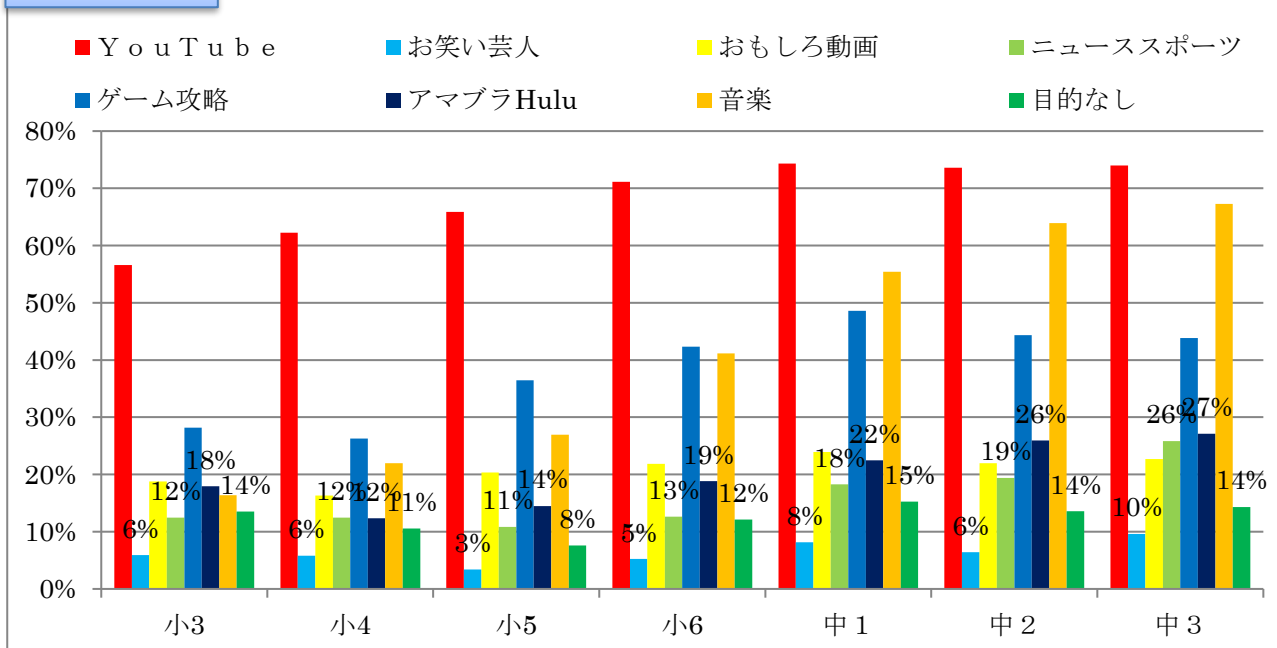


小中学生が一番多く利用しているのはこれまでと同様に動画の視聴であり、小中学生ともにその割合が高い。ゲームはどの学年も50%程度の使用割合である。音楽、調べる、勉強、電話が、学年が上がる毎に増えていく。SNSの利用は小6から増加し始め、中3になると65%の利用と、すべての生徒が利用している訳ではないものの、SNSを利用して情報に触れている生徒が半数以上いる結果となった。

問③ 動画について、よく見ている当てはまるものを選んでください。

※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。

複数回答あり

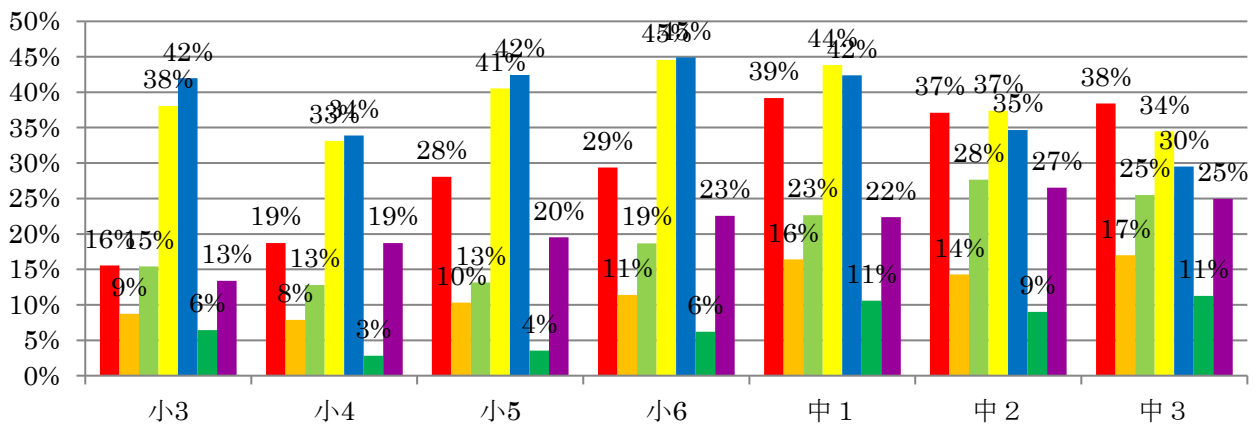


全学年YouTubeの動画を見ることが最も多く、ゲーム攻略動画がこれに続く。音楽の動画は学年が上がる毎に増加し、中学3年ではトップに並ぶ。目的なしがどの学年にも1割程度おり、「つい見てしまう」「やめられない」様子が伺える。

問④ オンラインゲームについて、よくやっていて当てはまるものを選んでください。※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。

複数回答あり

■ バトロワ・戦争系 ■ スポーツ ■ パズル
 ■ アクション ■ コミュニケーション ■ シミュレーション
 ■ R P G

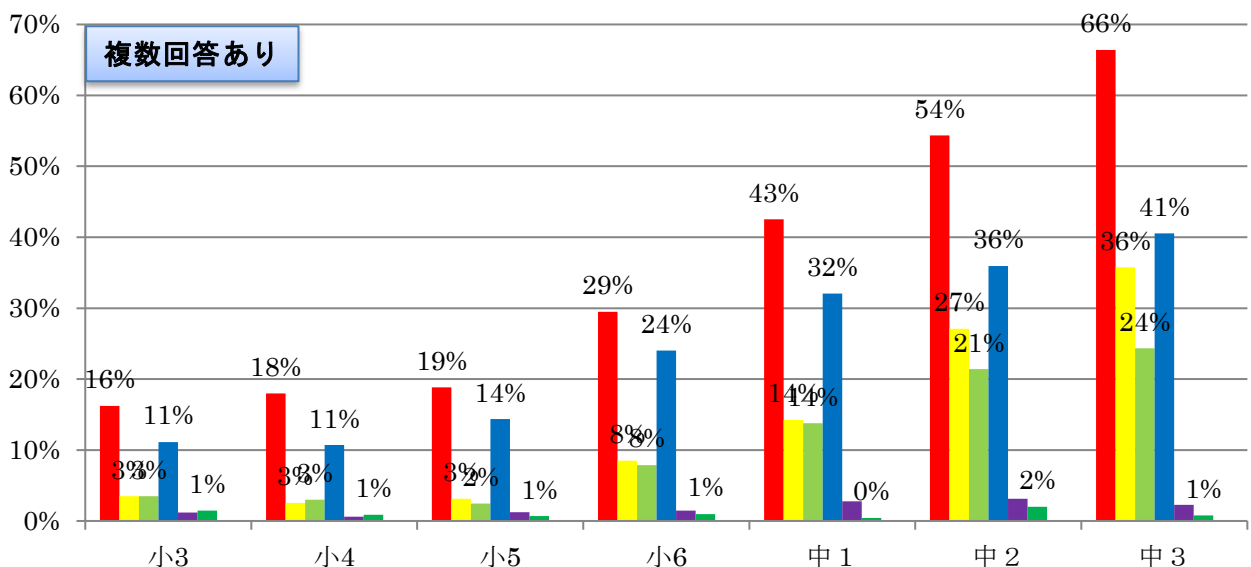


子ども同士のトラブルが多いバトルロワイヤルゲームや戦闘系のゲームは、小学校5年生から6年生が30%近くの児童が、中学生は40%の生徒がやっている。コミュニケーション、アクションとも小学校6年生がピークとなり、中学校1～3年生では学年が上がるごとに減少する。ゲームの利用は多いものでも40%程度であり、「クラスのみんながやっている」状況ではない。また、オンラインゲームはオンラインの特性上、学年を越えてコミュニケーションをしている可能性もある。

問⑤ SNSについて、よくやっていて当てはまるものを選んでください。※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。

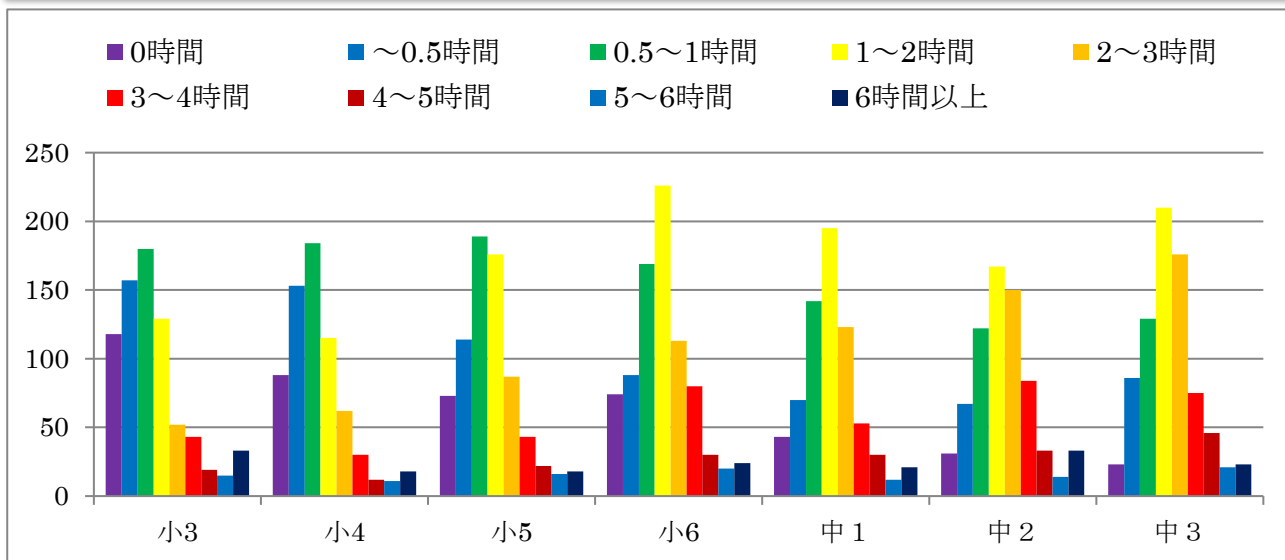
■ L I N E ■ インスタグラム ■ T w i t t e r ■ T i k T o k ■ F a c e b o o k ■ Y a y !

複数回答あり



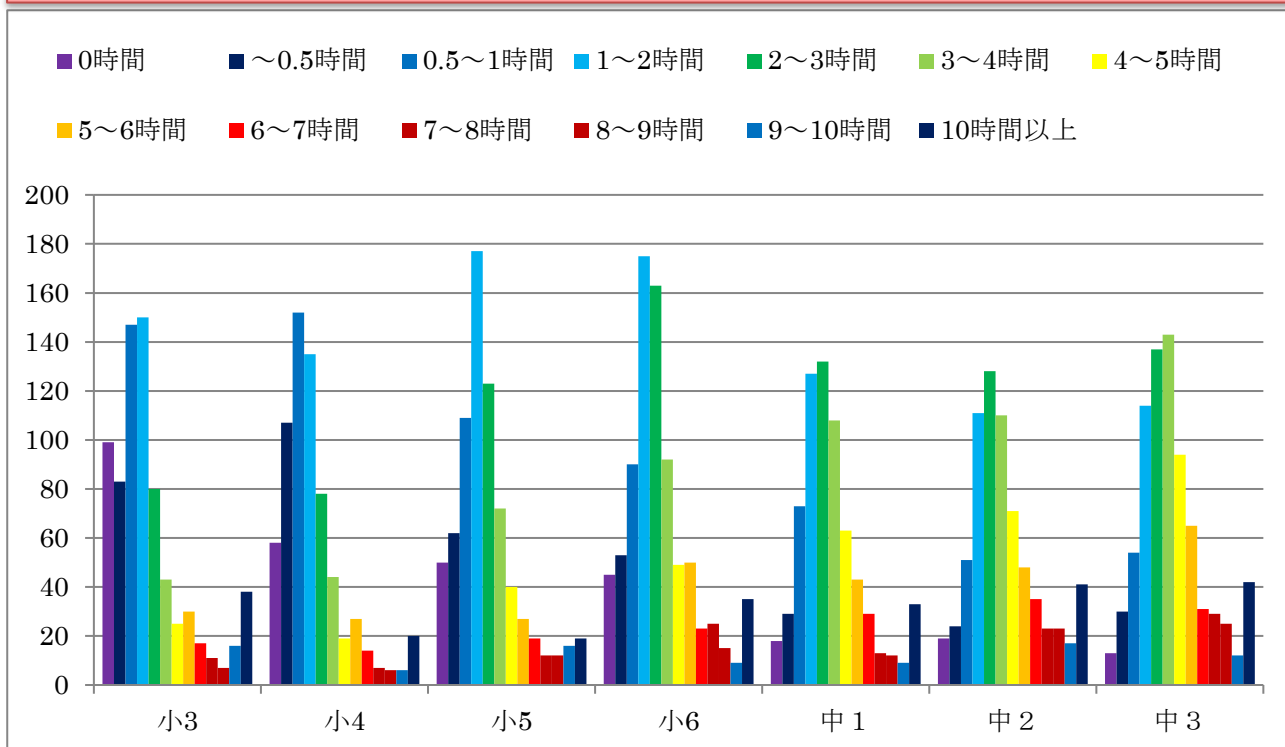
L I N E と T i k T o k の利用が多く、インスタグラムがそれに続く。L I N E は中学2・3年生で半数以上の利用がある。学校からの報告と併せると、L I N E は生徒同士で学校生活に関わる連絡や確認手段として使われている。インスタグラムは、視聴のみか、自ら発信しているかによってかかえる課題が変わってくる。情報の発信をしている場合は、個人情報流出や誹謗中傷などが心配される。

問⑥-1 平日、学習以外【SNS、ゲーム、動画など】で平均どのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？



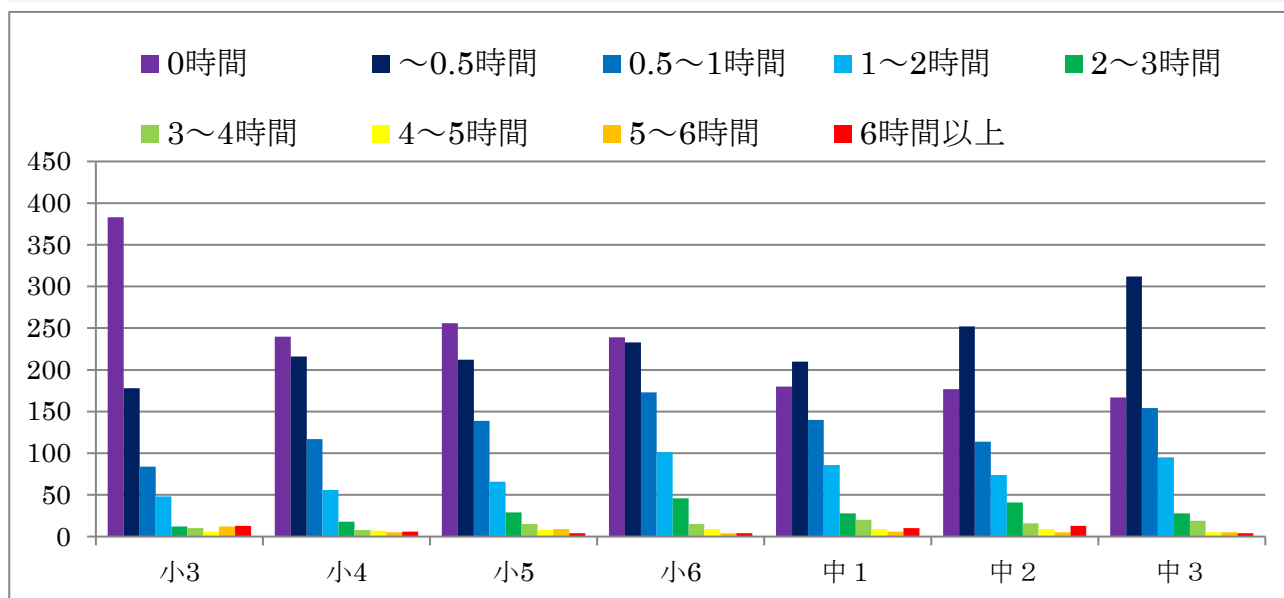
小中学生ともに、学年が上がるにつれて使用時間が増加している。小学校3年生で0.5～1時間がピークであるのに対して、小学校6年生で1～2時間がピークとなり、中学校3年生まで続く。また、どの学年にも6時間以上使っている生徒が一定数いることも電子メディアへの依存を考えるうえで注意が必要である。

問⑥-2 休日、学習以外【SNS、ゲーム、動画など】で平均どのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？



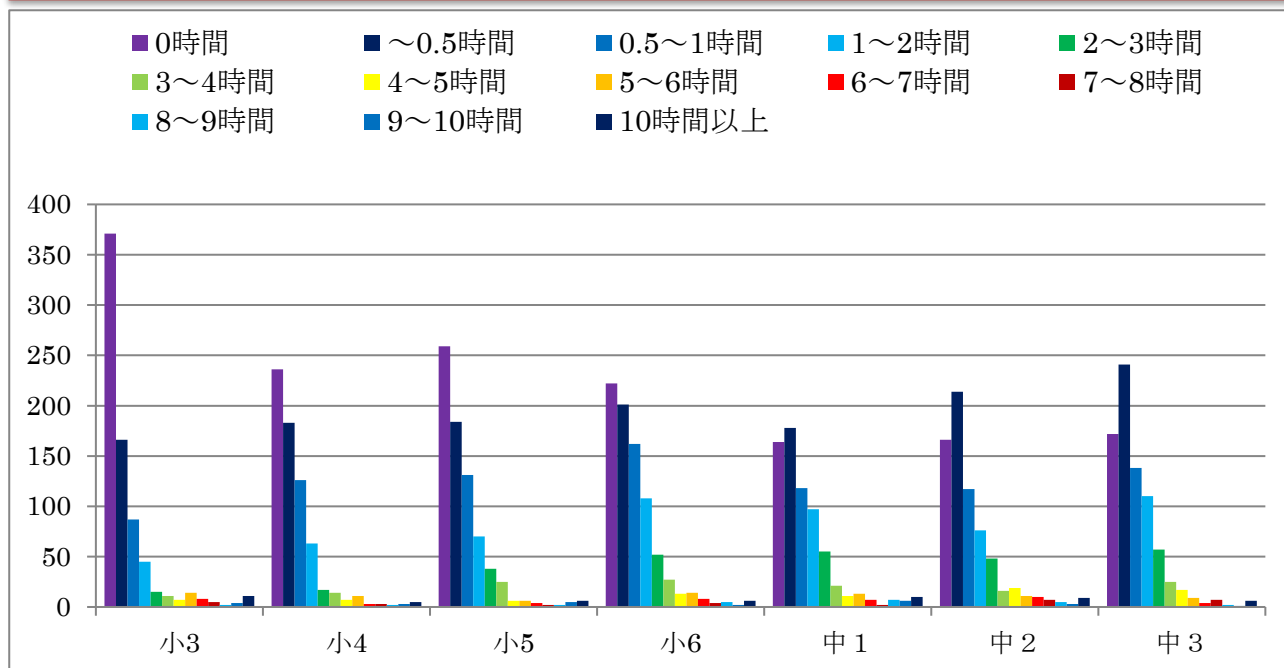
平日と同様に、学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。ピークの値は昨年度と同様だが、長時間の使用が増加している。10時間以上電子メディア機器に触れている児童生徒が、どの学年でも少しずつ増加してきている。

問⑥—3 平日、学習でICT機器【パソコン、スマホ、タブレット】を平均何時間くらい使っていますか？



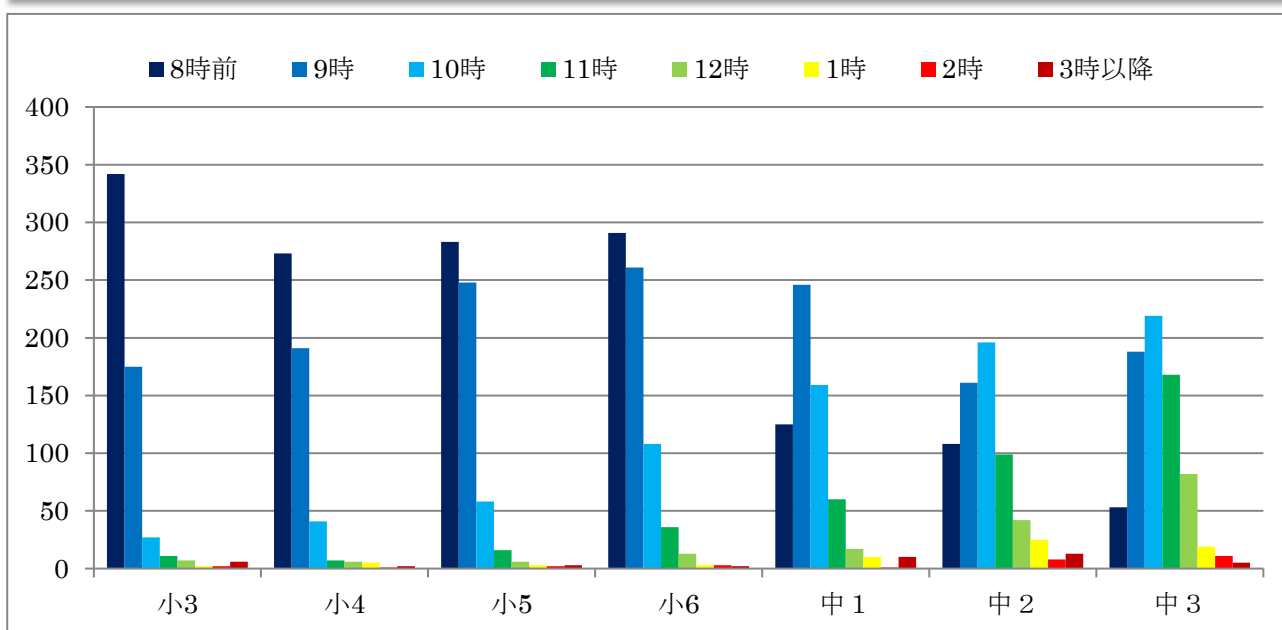
平日の学習での利用が、どの学年でも昨年度より若干割合が増えている。一人一台端末の持ち帰りを試験的に行い、家庭学習で利用したことが反映されたと考える。中学生になると0.5時間利用がピークとなるが、それ以上の使用は小学生と大きく変わらない。今後、一人一台のタブレット端末の持ち帰りが日常化されると、平日のICT機器を利用した学習時間に変化が生まれると考えられる。

問⑥—4 休日、学習でICT機器【パソコン、スマホ、タブレット】を平均何時間くらい使っていますか？



休日でも、平日と同様の傾向が見られる。若干ではあるが、4時間以上から10時間以上まで数人の使用があり、どのような学習にICT機器を利用しているのか細かく調査する余地がある。学習での利用とはいえ健康被害は心配であり、長時間使用とならないようにすることは課題である。

問⑦ 平日の夜、ゲームや動画、SNSなどを何時頃までやっていることが多いですか？ ※使っている人だけ答えて。

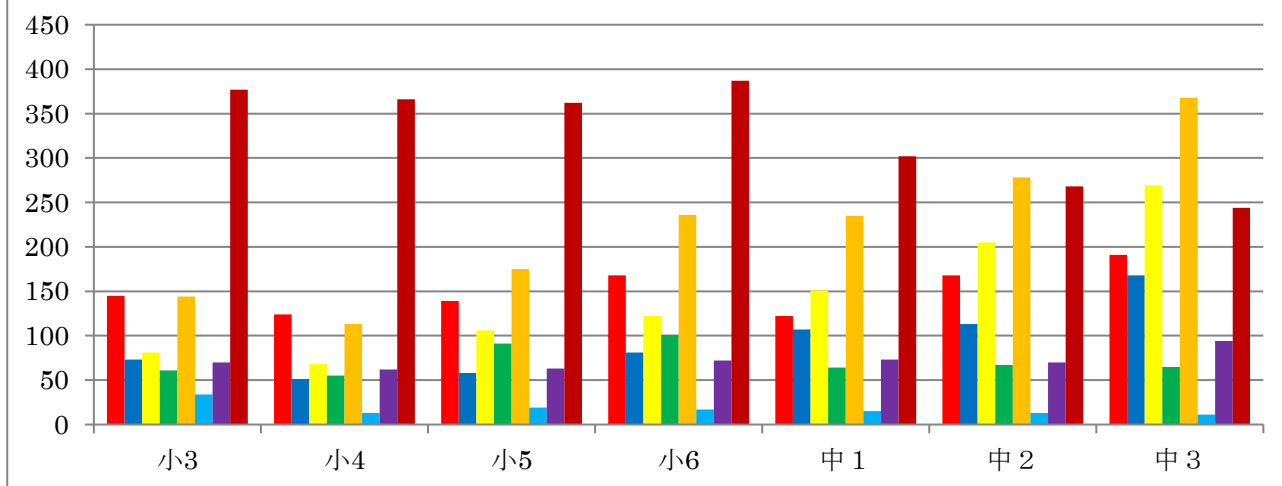


小学生は、午後9時頃までにやめる児童がほとんどである。中学生は、学年が上がるにつれて遅い時間まで使用している状況である。中学生は、午後11時以降の使用が多くなり、3時以降使用している生徒もいる。保護者の目の届かないところでの使用している児童生徒はおり、心や体への影響、ネット上でのトラブルが心配である。

問⑧ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって・・・？ ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。

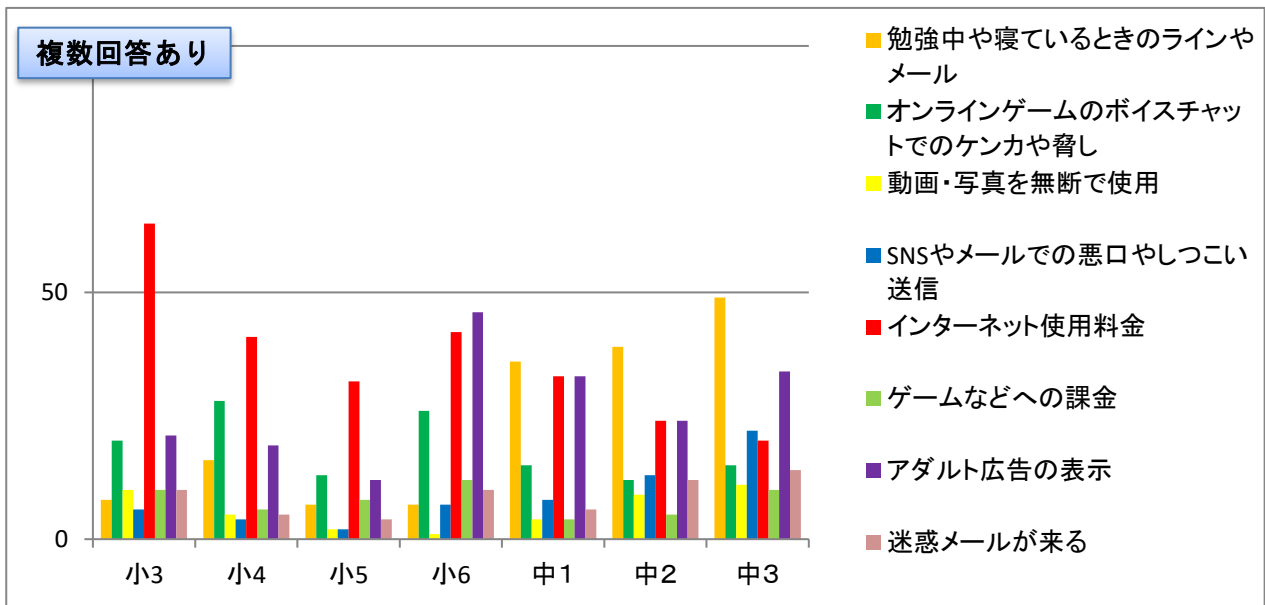
複数回答あり

- 使用時間長く
- 睡眠時間不足
- 学力低下
- 運動不足
- 目の悪影響
- 心が心配
- 脳への影響
- とくにない



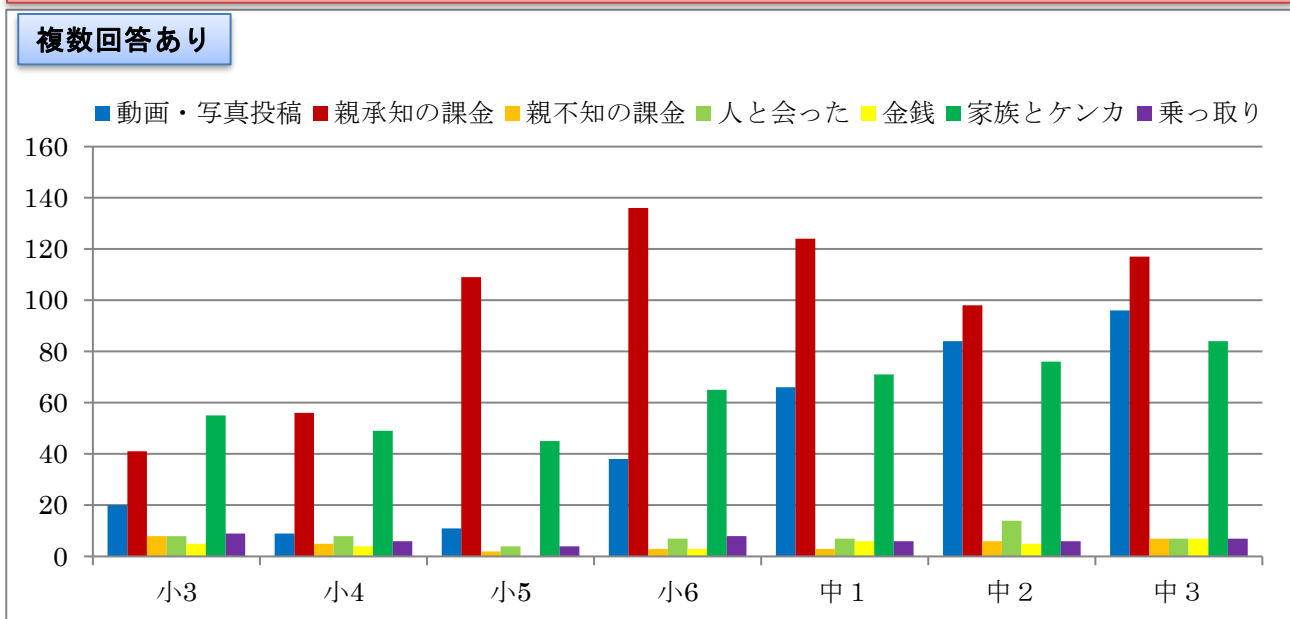
小学生の半数以上の児童は、特に感じていることはないと答えている。ここ数年、小中学生ともに「使用時間が長くなった」という回答が多く、合わせて、学力低下、睡眠時間および目への影響についても考えている児童生徒は増えてきている。このことから、使い過ぎがよくないことがわかっているのにやめられないという状況があると示唆され、その状況は学年が上がるとともに増えている。電子メディア機器の使用が増えた分の時間、学習時間や睡眠時間を削っている現状も見える。

問⑨ スマホ、タブレット、ゲーム機などを使うようになって、問⑧以外で困った（心配な）ことはありましたか？ ※使っている人だけ。いくつ答えてもよい。



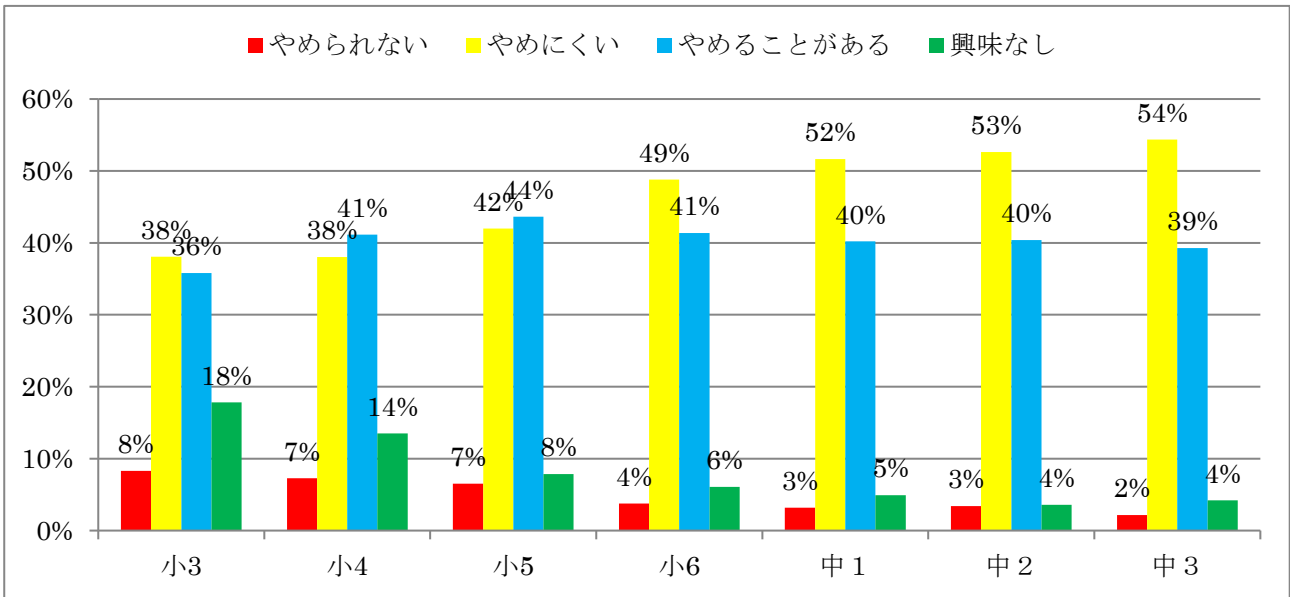
各項目に、数人から数十人が困っていると回答しており、どの学年においても一定割合の生徒が何らかのトラブルを経験していると考えられる。中学生のLINEやメールと回答している生徒の割合が多いのは、中学生になってみられる特徴である。これは、自分用のスマホを持つことにより、子ども同士の個人的なやり取りが行われるようになったからだと考えられる。困りごとが学年問わずあるのは、見過ごせない課題である。

問⑩ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになり、次のようなことはありましたか？ ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい



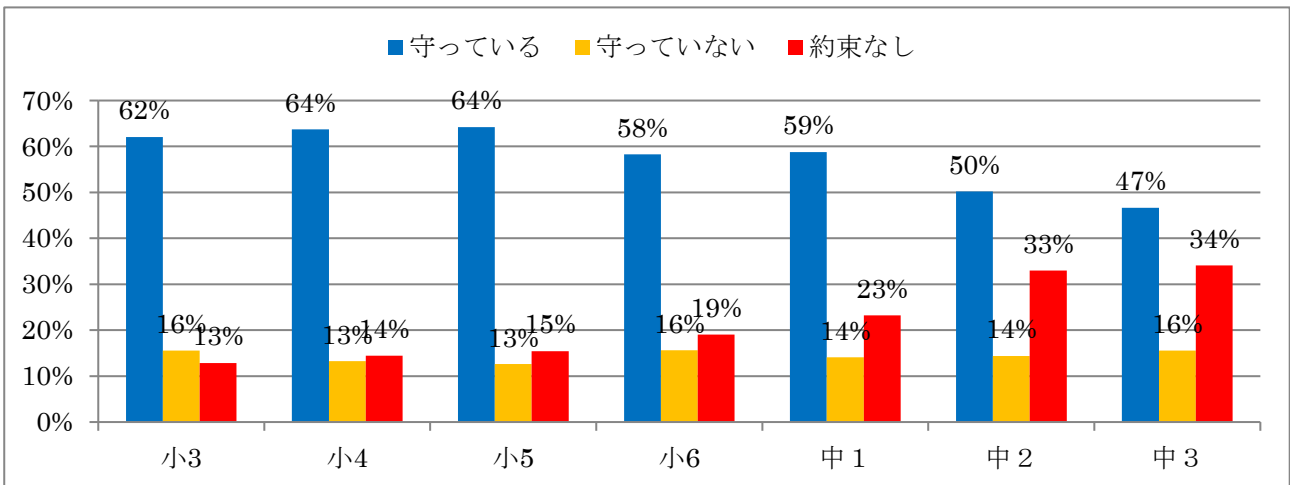
課金を要するゲームが増え、親が承知したうえで課金する児童生徒は増えている。また、中学生の電子メディア利用が増えることに合わせ、インスタグラム、TikTokで動画・画像を配信する機会が増えている。また、電子メディアの使用に関わって、人と会ったことや、保護者とケンカになる児童生徒が多いのも心配なところである。

問⑪ あなたは、スマホ、ゲーム、インターネット（どれでもよい）に、どのくらい夢中になっていますか？



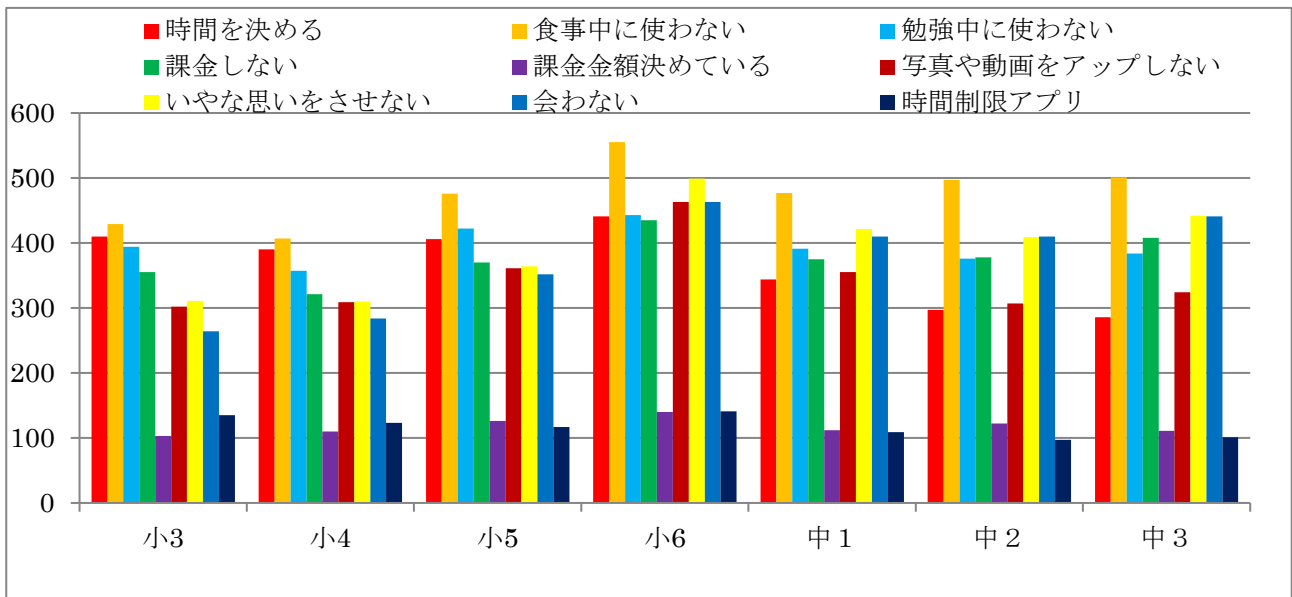
小学校3年生は、「やめられない」児童が8%だが、学年が上がるごとにわずかながら心のコントロールができるようになって、一定の歯止めが利くようになってくると考えられる。これは昨年度と同様である。しかし、「やめにくい」は昨年度より増加傾向にあり、保護者のコントロールもある程度は必要な状況にあると考えられる。

問⑫ スマホやタブレット、ゲーム機を使うときのお家の人との約束はありますか？ ※使っている人だけ答えて。



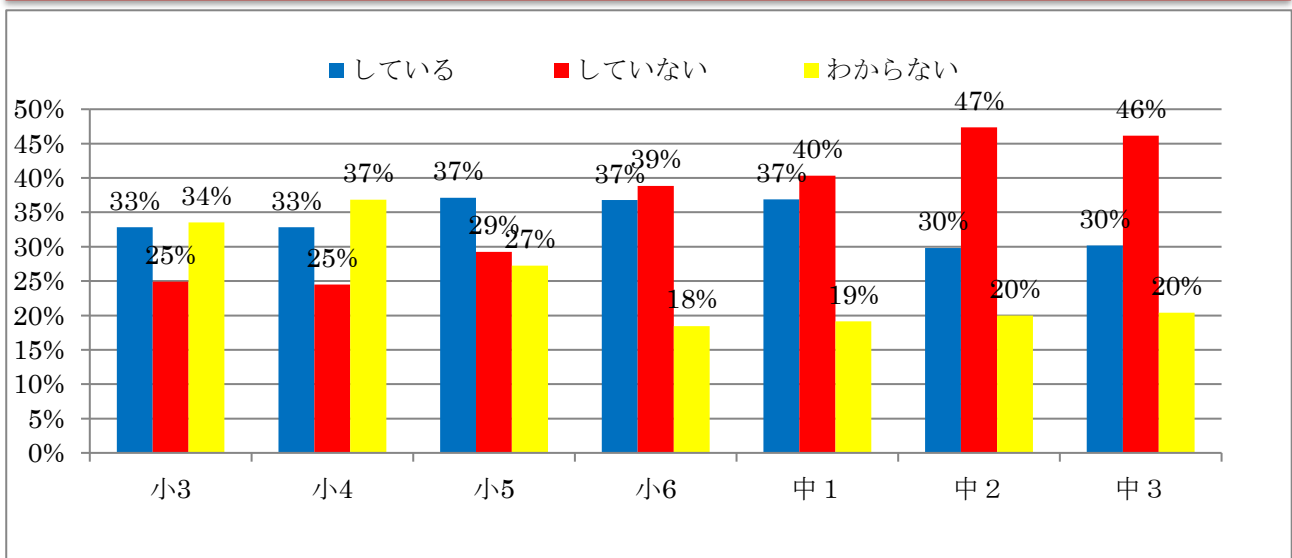
「約束を守っている」と答えている割合が多いのは小学生で、昨年度よりも1%～2%割合は増えている。しかし昨年度同様、学年が上がるにつれてその割合は減少している。それとは逆に、学年が上がるにつれて「約束がない」と捉えている児童生徒が増加しており、中学生になるとその割合が2～3割強に達する。保護者との意識のズレについては毎年同じ傾向で、保護者は、約9割が約束があると思っている。学年が上がるにつれ、徐々に「約束がないがごとくになっている」のではないかと考えられる。また、学年が上がると親子のコミュニケーションが減ることも多く、様々な面で親子関係づくりも大切なポイントになると考えられる。

問⑬ スマホやタブレット、ゲーム機を使うとき、心がけていることや決めていることはありますか？ ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。



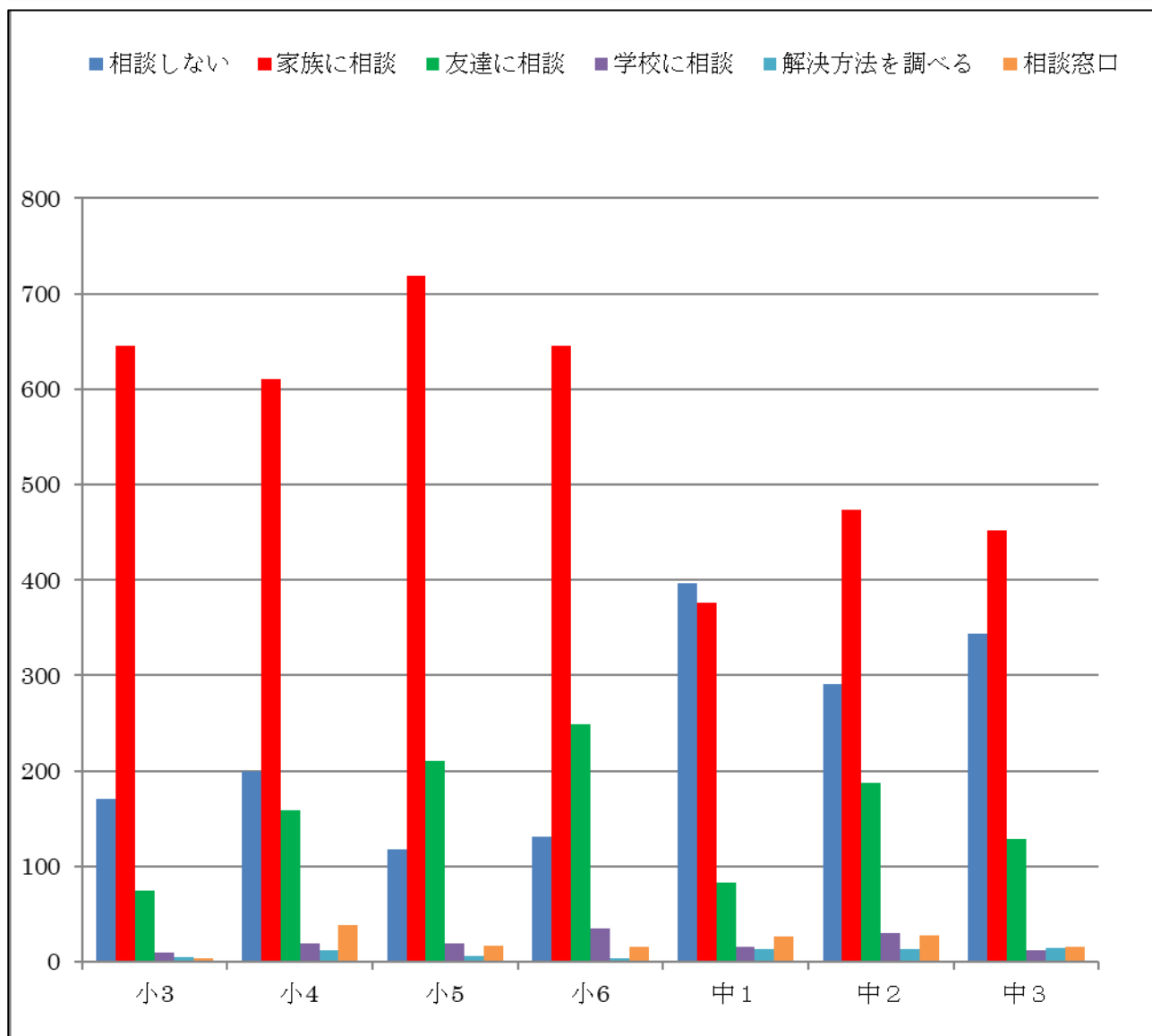
心がけていること、決めていることとしては「食事中に使わない」がトップになり、中学校3年生まで続く。中学生になると「いやな思いをさせない」が2番目に多くなる。これは、情報モラル教育の成果と電子メディアを通して学んだ経験が、生徒のモラル意識を高めていると考えられる。また、小学生は「勉強中に使わない」ことを心がけており、意識して学習と余暇の時間を設けていることが考えられる。児童生徒が電子メディアに自分なりに正しく関わろうとする意識があることが読み取れる。

問⑭ペアレンタルコントロール（親が時間制限、アプリ制限）をしている。



ペアレンタルコントロールを親が「している」と思っている小学生は3～4割ほど、中学生は2～3割ほどで、中学生になると減少していく。小学生の3割は「わからない」と回答しており、自分の使うゲーム機等が安全に使えるかどうかを、自分自身で分かっていない状況で使用していることが伺える。

問⑮ スマホやタブレット、インターネットで困ったことが起きたらどうしますか？※いくつ答えてもよい。



小学生の多くは、困ったことが起きた時「家族に相談する」ことを意識してゲーム機やインターネットを利用していることがわかる。しかし、小学校5年生から中学生になると困ったことが起きても「相談しない」と回答している生徒が増加する。そこには、思春期により家族との関係に一定の距離が生まれ、家族との関わりに煩わしさを感じたり、自分で何とかしようとしたり、親しい友人に相談を優先する傾向あったりすることが読み取れる。また、「学校に相談」する人数は、小学生、中学生ともに非常に少なく、学校が相談を受けた時には、問題も大きくなっていることが多い。その背景には、「先生に怒られる」「友達に知られたくない」「友達に言ってほしくない」といった子どもなりの理由が影響している。

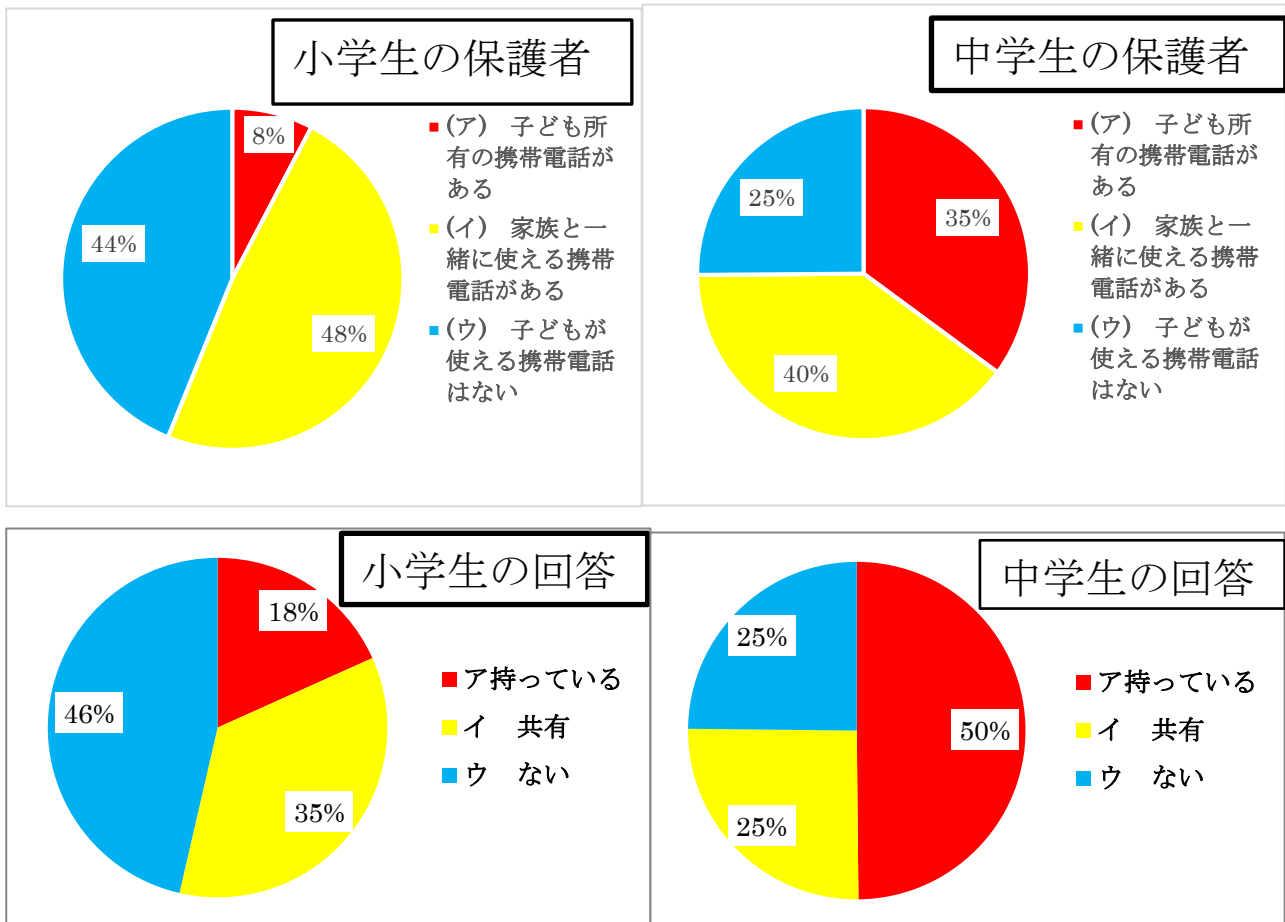
このような現状から、改めて子どもと大人、保護者が電子メディアの関わり方について共通理解を図る事が大事だと考える。特に、児童生徒の電子メディアを正しくコントロールして利用する意識や行動を大人が正しく評価し、何でも相談し、よりよい活用方法を常に同一歩調で生み出す関係を作ることが大切だと考える。

(2) 小中学生保護者アンケートの結果から

お子様の学年を教えてください。

小学校	1年 669人	2年 624人	3年 662人		
	4年 651人	5年 680人	6年 742人		
	計 4028人	4028 (回答数) / 5017 (全児童数)		回収率	79%
中学校	1年 628人	2年 635人	3年 673人		
	計 1936人	1936 (回答数) / 2429 (全生徒数)		回収率	80%

問1 お子様が使えるスマートフォンはありますか？



昨年に比べ小学生の保護者で2%、中学生の保護者で8%、子ども所有する電子メディアがあると回答する保護者が増えた。子どもに電子メディアを所有させる保護者は増加している。また、例年同様保護者の回答と、学校において子どもが回答した結果に差が見られる。小学生は18%が自分専用の電子メディアを持っているとしているが、保護者は8%で2倍近くの開きがある。中学生は子どもの50%が自分専用の電子メディアがあると回答しているが、保護者は35%で、こちらも1.5倍の違いがある。状況として、

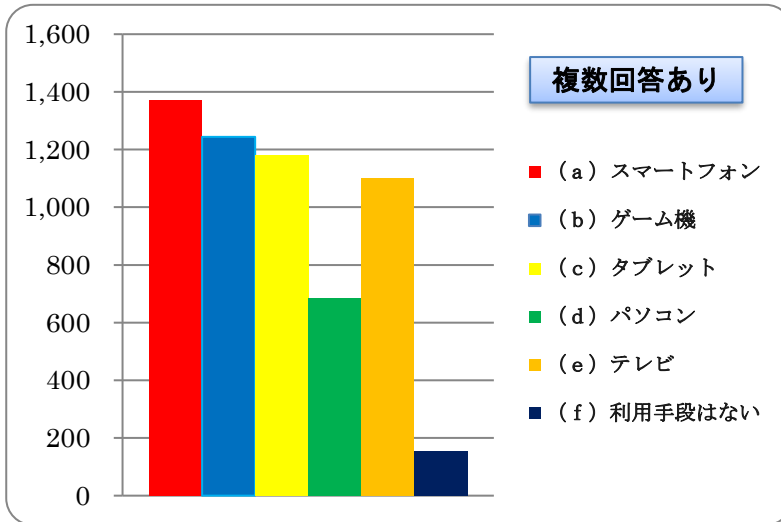
② 保護者は保護者の所有物と思っけていても子どもは「自分のもの」と捉えている。

②保護者所有の電子メディアを保護者が認識している以上に子どもが使っている。

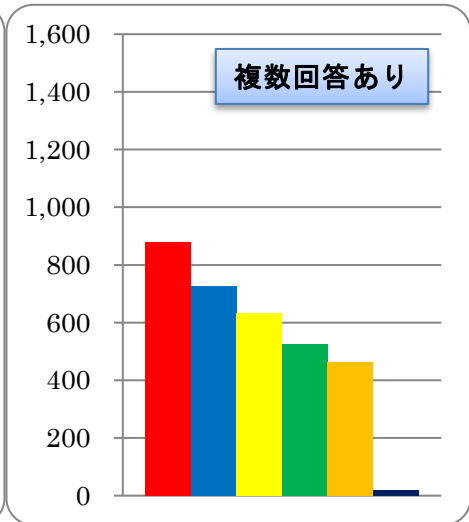
この状況は、ここ数年変わらない。「保護者が知らないところで子どもが使っている」といった状況にならないように気をつけていく必要がある。

問2 ご家庭でお子様可以利用できるインターネット環境はなんですか？
(複数回答可)

小学生の保護者



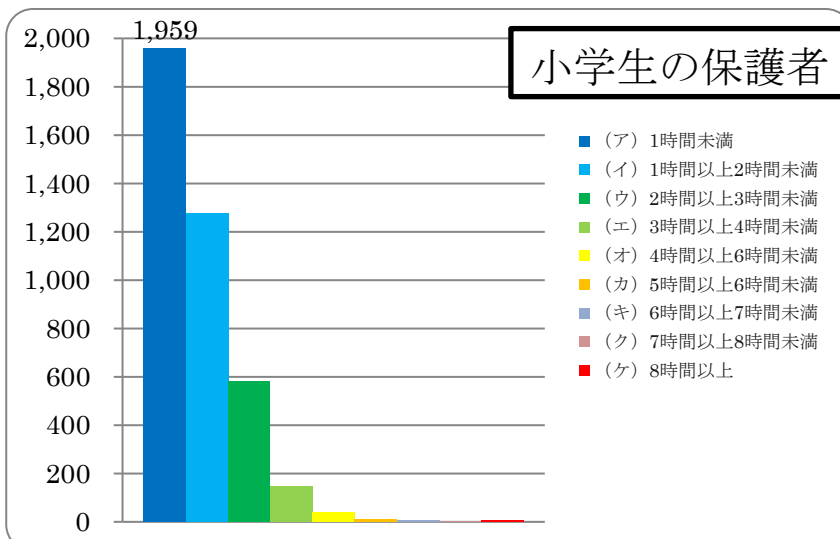
中学生の保護者



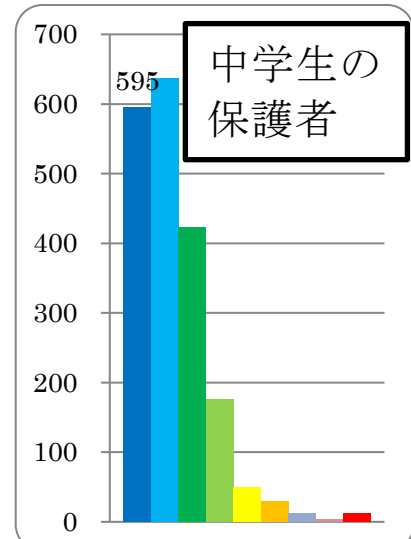
スマートフォン、タブレット、様々なゲーム機は、Wi-Fi環境があればインターネットに接続できるようになっており、機器の特性とインターネットセキュリティーを十分理解して子どものメディア環境を管理する必要が出てくる。小中学生ともに、一番多いのはスマホであるが、2, 3番目はゲーム機、タブレットとなっている。対戦型のゲームなど、インターネット接続することで、世界中の利用者とつながることができるため、見知らぬ人と対戦したり、チームを作って遊んだり、更にその中で、チャット機能で会話をするなど、文化、環境の違う人との出逢う機会もたくさんある。今後、パソコンからインターネット接続をすることのみならず、ゲーム機等からのアクセスの問題点についても十分に理解したうえで、子どものインターネット接続に重視して保護者へ啓発を進める必要がある。

問3—① 平日（SNSやゲーム、動画視聴など、学習以外で使う時間）

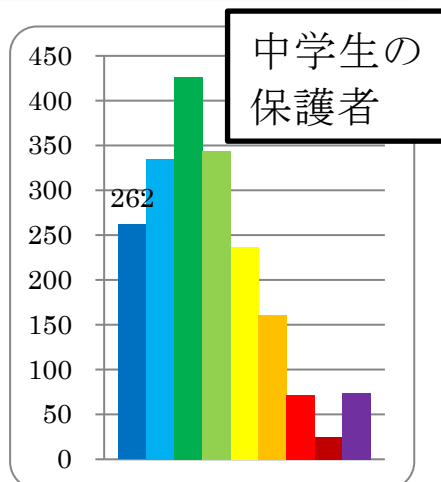
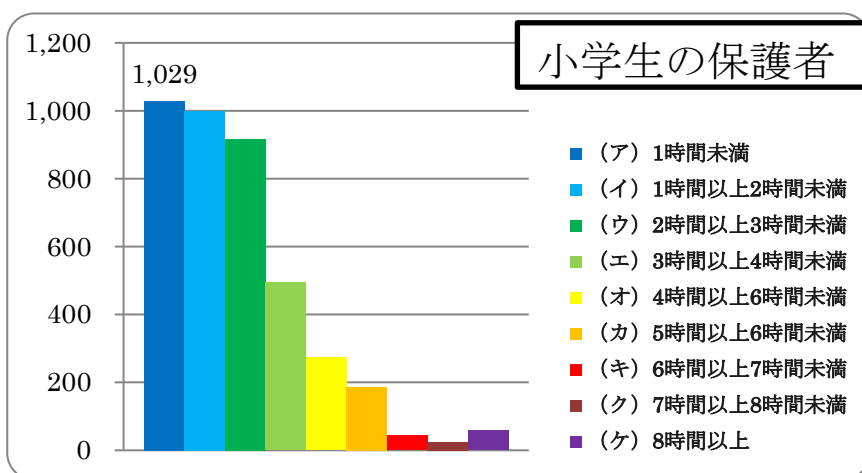
小学生の保護者



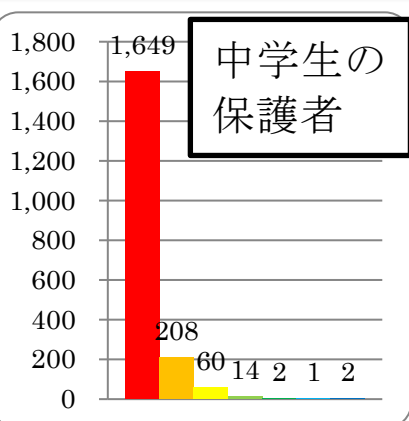
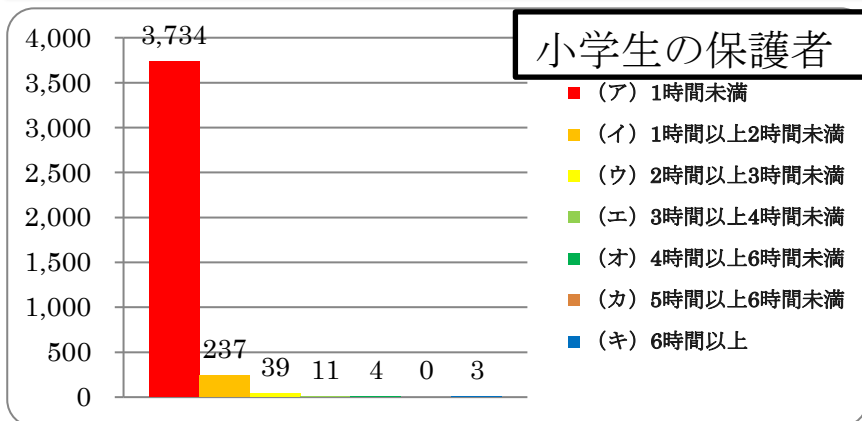
中学生の保護者



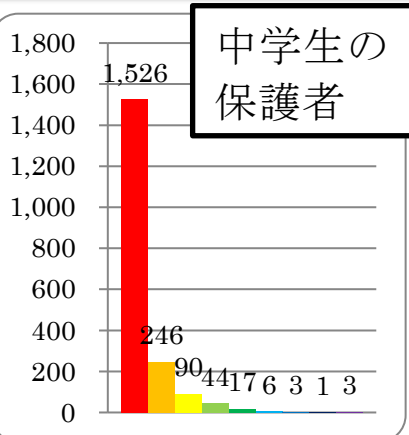
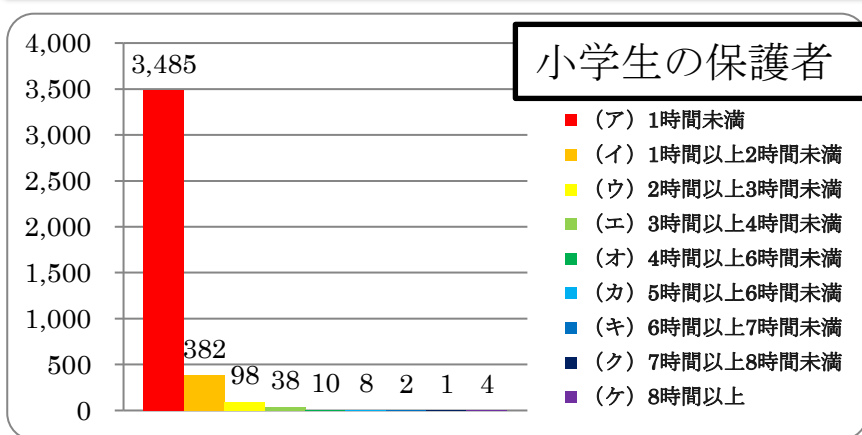
問3-② 休日（SNSやゲーム、動画視聴など、学習以外で使う時間）



問3-③ 平日（家庭学習でパソコン、タブレット等のICT機器を使う時間）

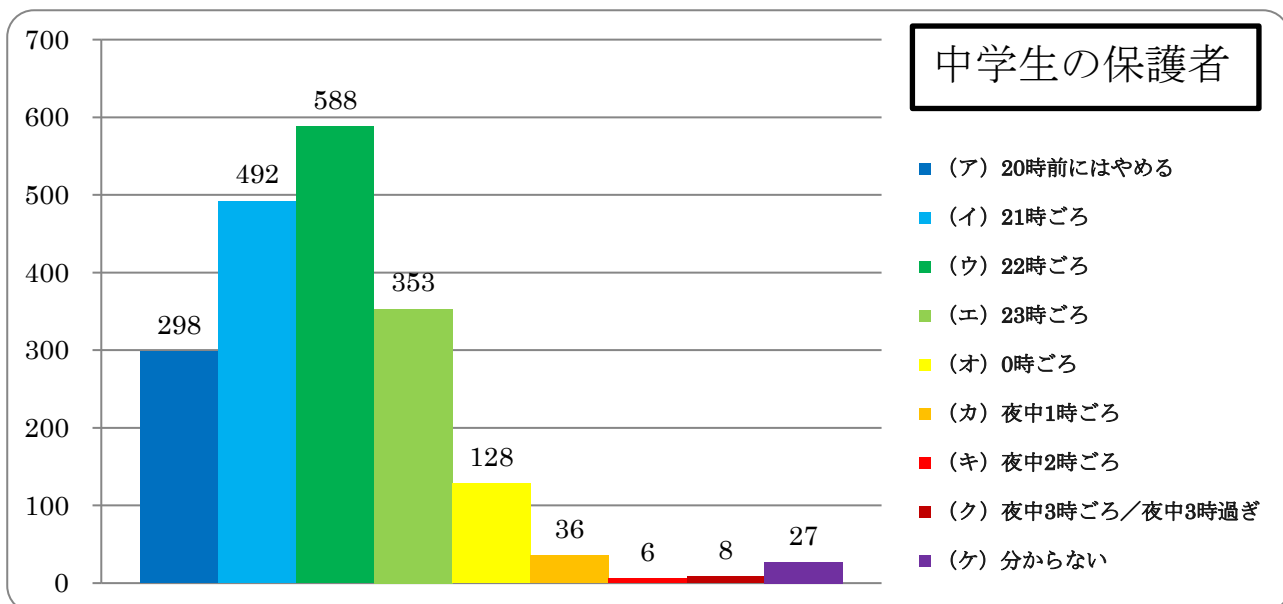
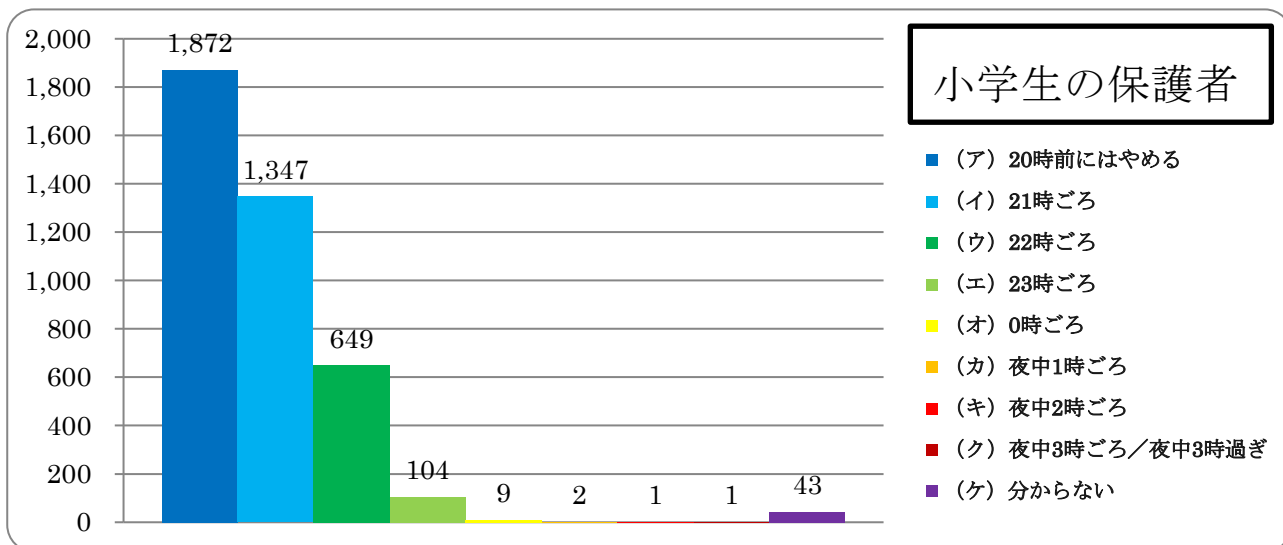


問3-④ 休日（家庭学習でパソコン、タブレット等のICT機器を使う時間）



平日、休日ともに、保護者は子どもの長時間使用の実態を認識している。児童生徒のアンケートでも長時間の使用実態があり、保護者の回答数よりも多い。保護者が児童生徒の使用を管理できていない家庭があり、今後の学校生活が非常に心配な状況である。

問4 平日の夜、ゲームや動画視聴、SNSなどを何時ごろまで やっていることが多いですか？

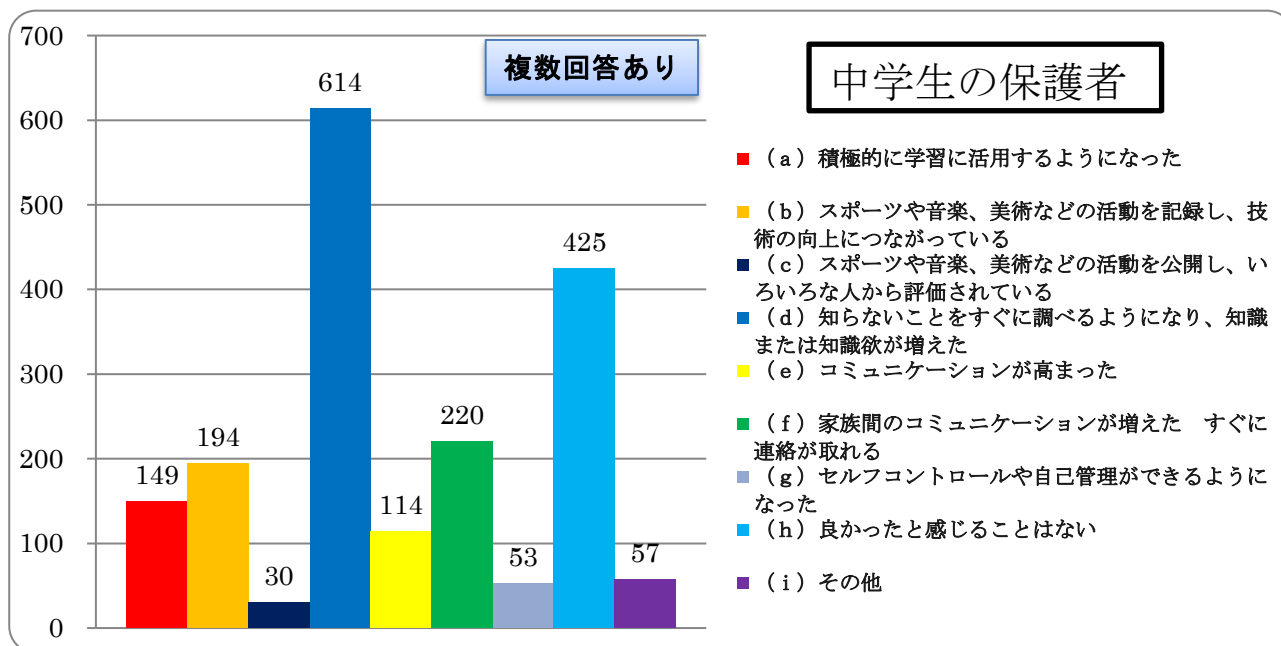
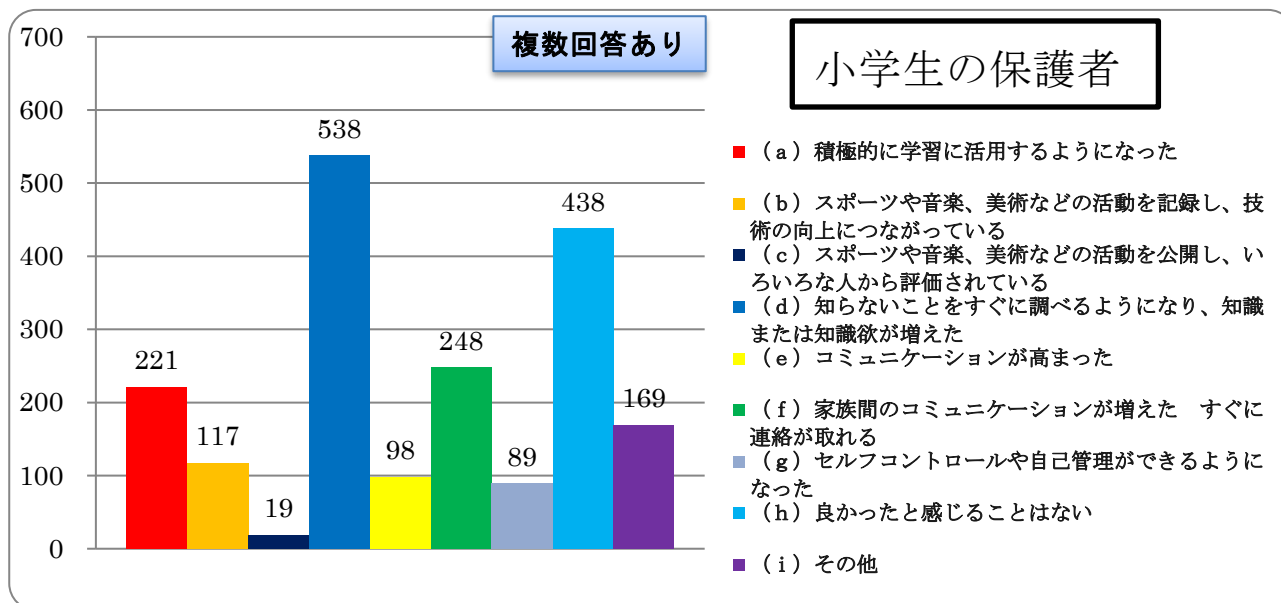


平日の夜、ゲームや動画視聴、SNSなどで使用している小学生のほとんどが21時ごろまでの使用であることがわかる。中学生になると、23時ごろには多くの生徒が使用をやめている。中学生は、使用のピークが21～23時ごろである。

小学生で23時頃以降も使用している児童がおり、夜中2時ごろ、3時ごろにも使用している児童がいることは驚きである。中学生では、0時以降の使用は小学生よりも多く、夜中の1時ごろ、2時ごろの使用も数人いる。小中学生のアンケートで、平日に6時間以上使用しているのは、このような時間と関連すると考えられる。

夜中の3時ごろまで使用していると、翌日学校に行くために、朝の時間は通常の起床であると、3～4時間しか睡眠がとれていないのではないかとと思われる。学校で授業中に眠ってしまったたり、朝から大きなあくびをしたりしている児童生徒を見かけることがあるが、このような生活リズムにあるのではないかと心配になる。さらに、大変心配なのは、小中学生ともに、0時以降も使用している小中学生がおり、保護者もそれを承知していること。また、児童生徒の使用時間について把握していない保護者もおり、児童生徒の電子メディアの使用状況が気になるところである。

問5 お子様がスマートフォンやパソコン、タブレット等を使うようになってよかったですと感じていることはありますか？（複数回答可）

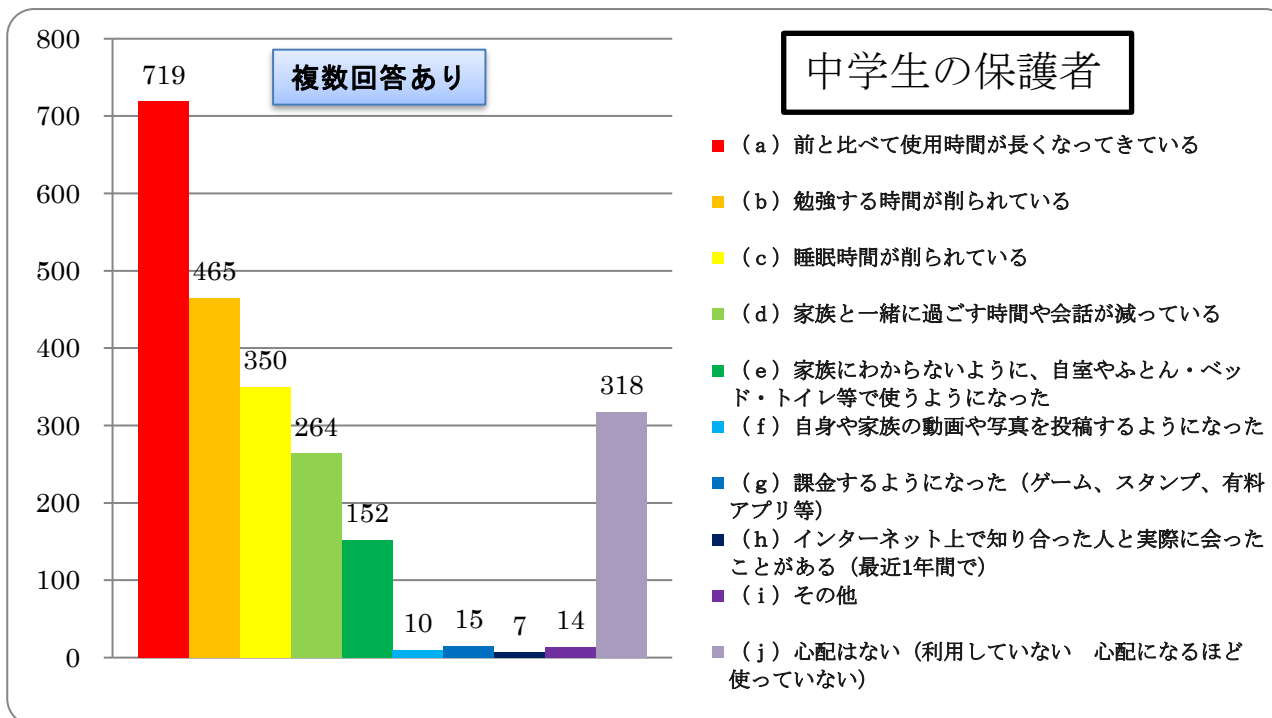
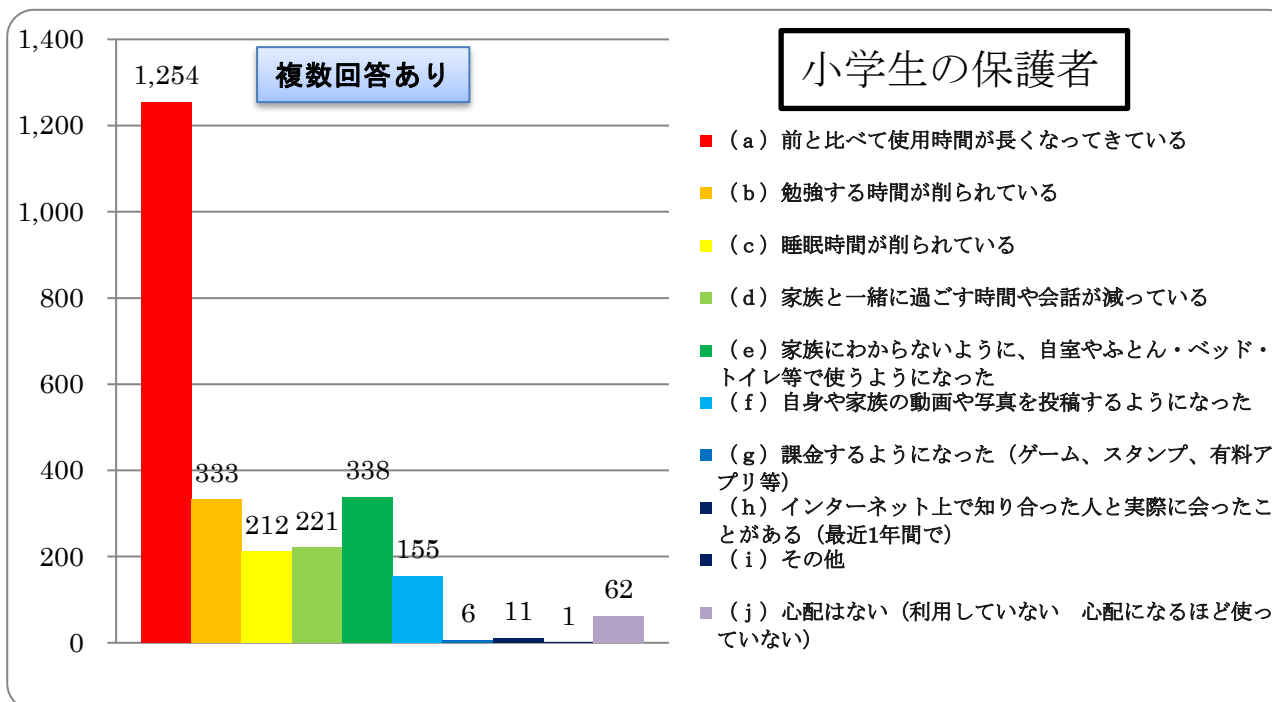


小中学生ともに、保護者が良かったと感じていることは「(d) 知らないことをすぐに調べるようになり、知識または知識欲が増えた」である。

2番目は「(h) よかったと感じることはない」が多い。小学生の保護者の約6%、中学生の保護者の約34%がこの回答であり、全体の約3分の1強の保護者が児童生徒の使用について否定的な思いがあることがうかがえる。

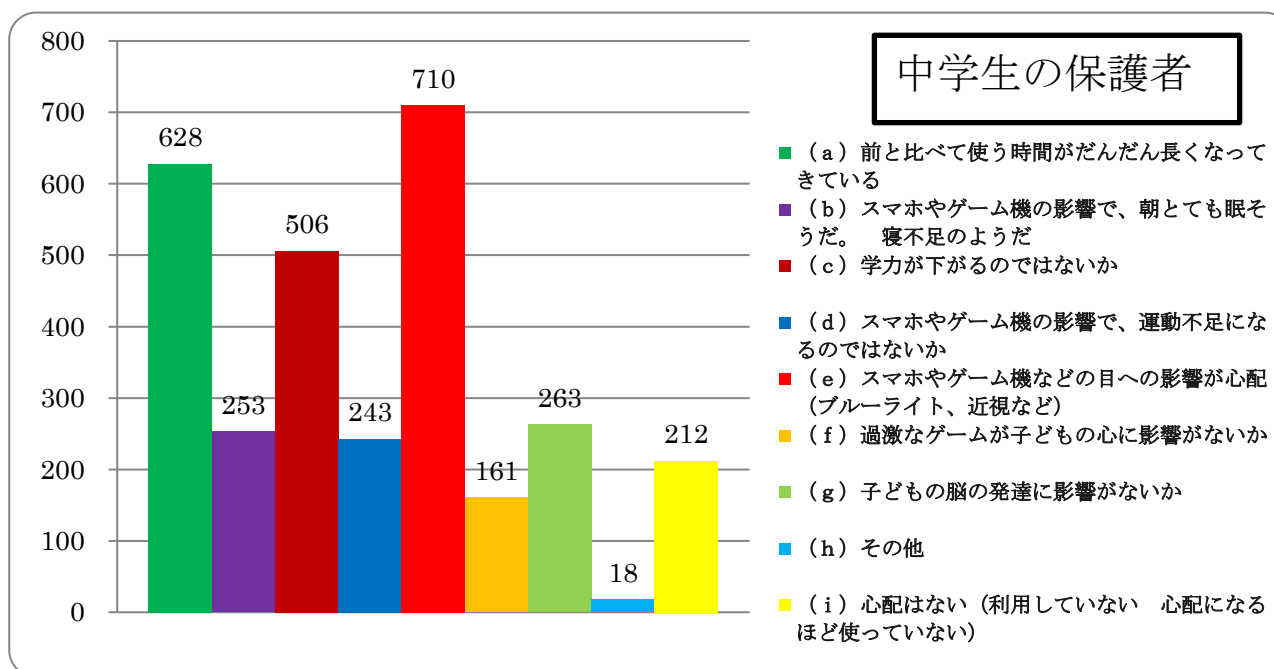
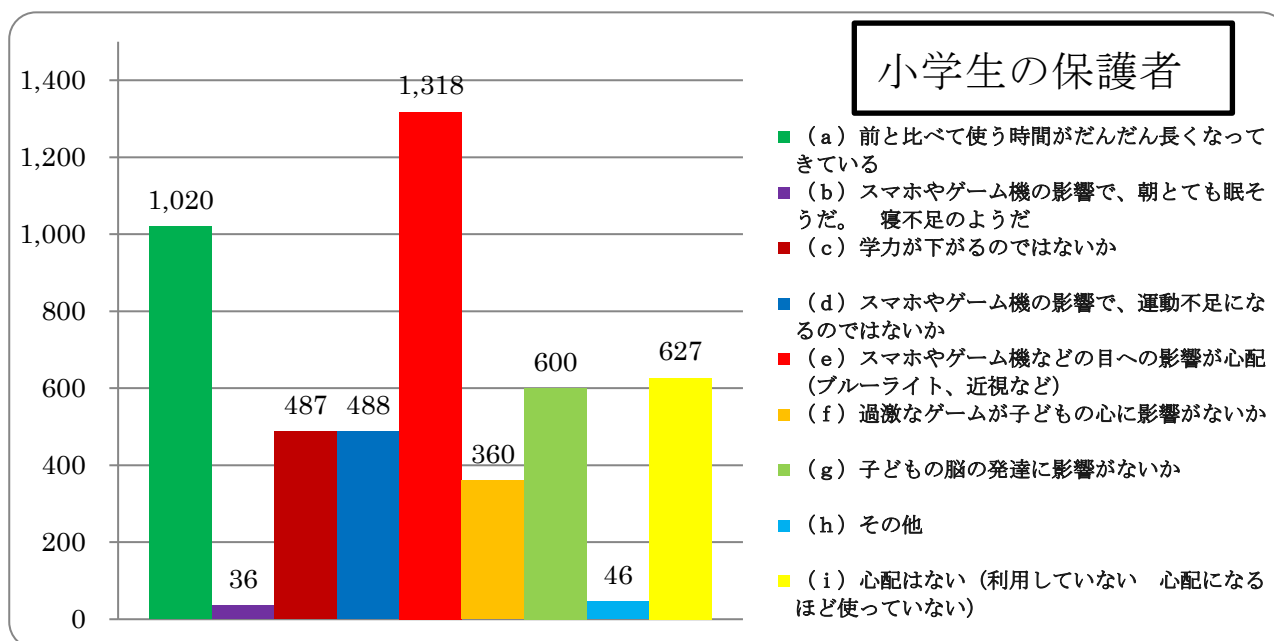
3番目は、小中学生の保護者ともに「(f) 家族間のコミュニケーションが増えた すぐに連絡が取れる」であり、SNSを含めた様々なコミュニケーションアプリの普及によってメディアを通して家族がコミュニケーションをしていることが伺える。また、4番目は、小学生保護者は「(a) 積極的に学習に活用するようになった」であり、中学生保護者「(b) スポーツや音楽、美術などの活動を記録し、技術の向上につながっている」であり、児童生徒自身の活動としてのICT機器活用の場面があることがわかる。

問6 お子様のインターネットやゲーム機等の利用について、
使い方に関して心配なことはありますか？（複数回答可）



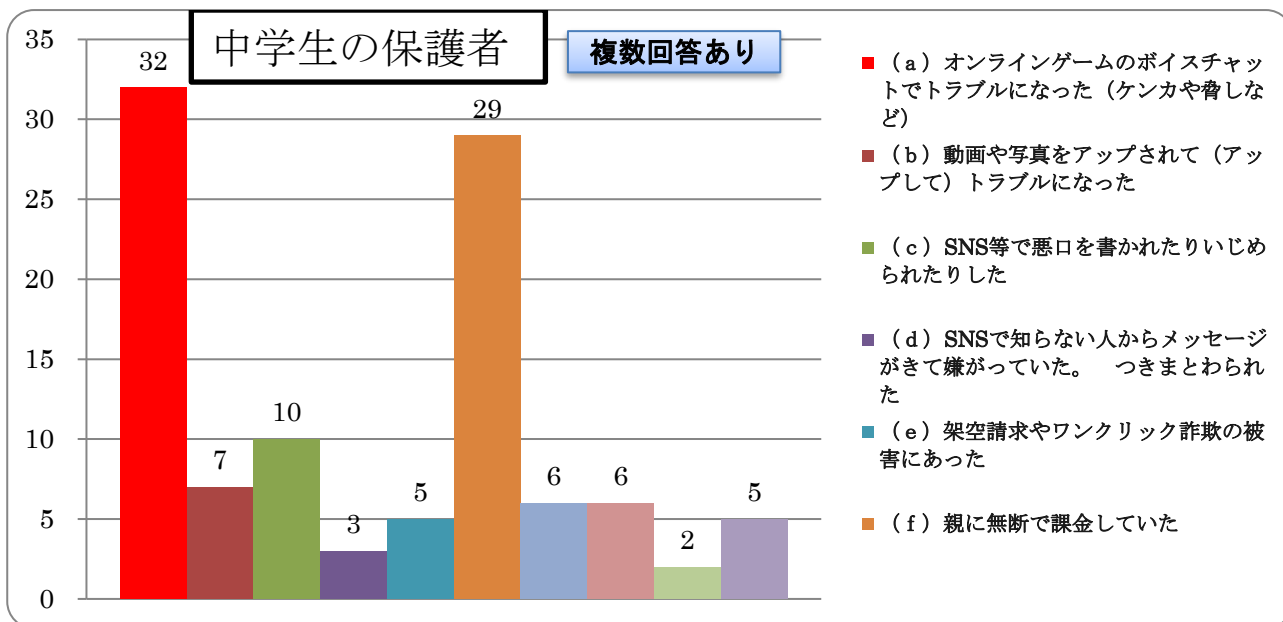
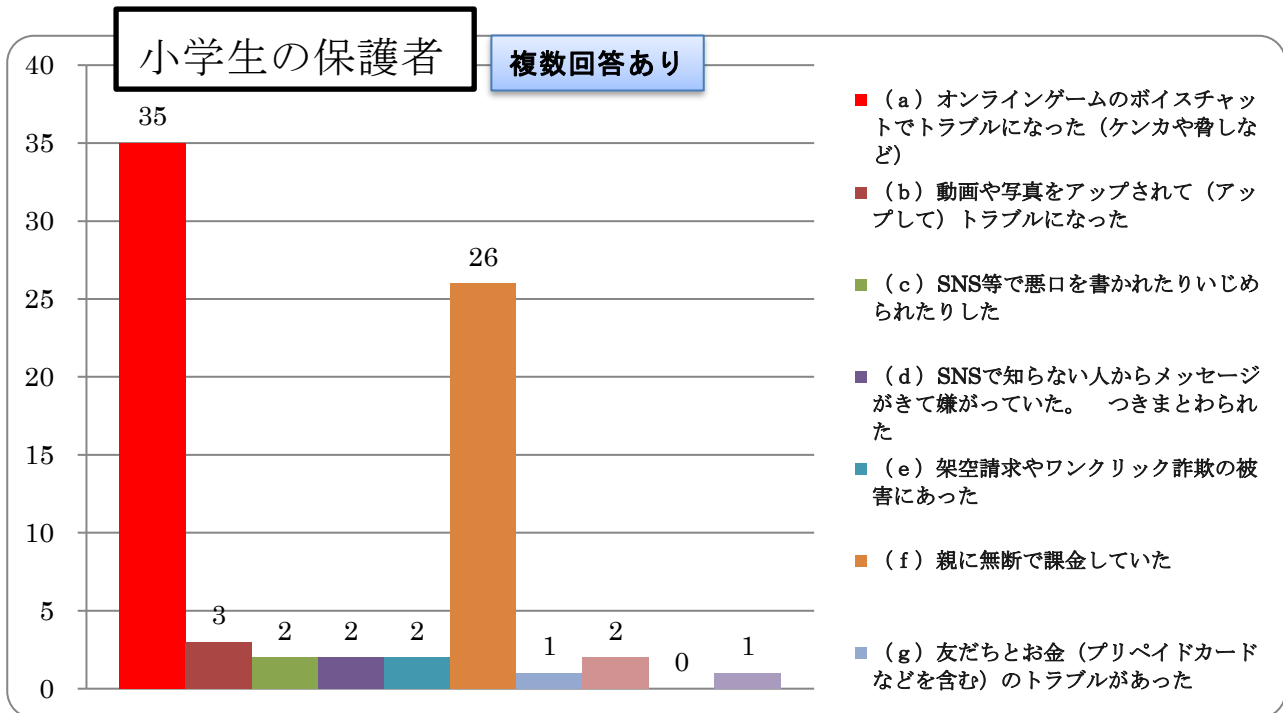
「(ア) 使用時間の増加」を心配する意見が小中学生の保護者はともに一番多い。小学生では、2番目に「(b) 勉強する時間が削られている」「(e) 家族にわからないように自室やふとん・ベッド・トイレ等で使うようになった」が多く、保護者が児童生徒をコントロールしきれていない状況も伺える。中学生の保護者では、その数は大きく増え「(b) 勉強時間や (c) 睡眠時間が削られている」ことを心配している保護者が多くなる。これは、中学生本人のアンケート結果とも一致しており、中学生が勉強時間や睡眠時間を削って、電子メディアを使用していることは間違いないと考えられる。また、昨年度に比べ、「(j) 心配はない（利用していない 心配になるほど使っていない）」と回答している中学生の保護者が大幅に増えた。

問7 お子様のインターネットやゲーム機等の利用について、
健康面等で心配なことはありますか？



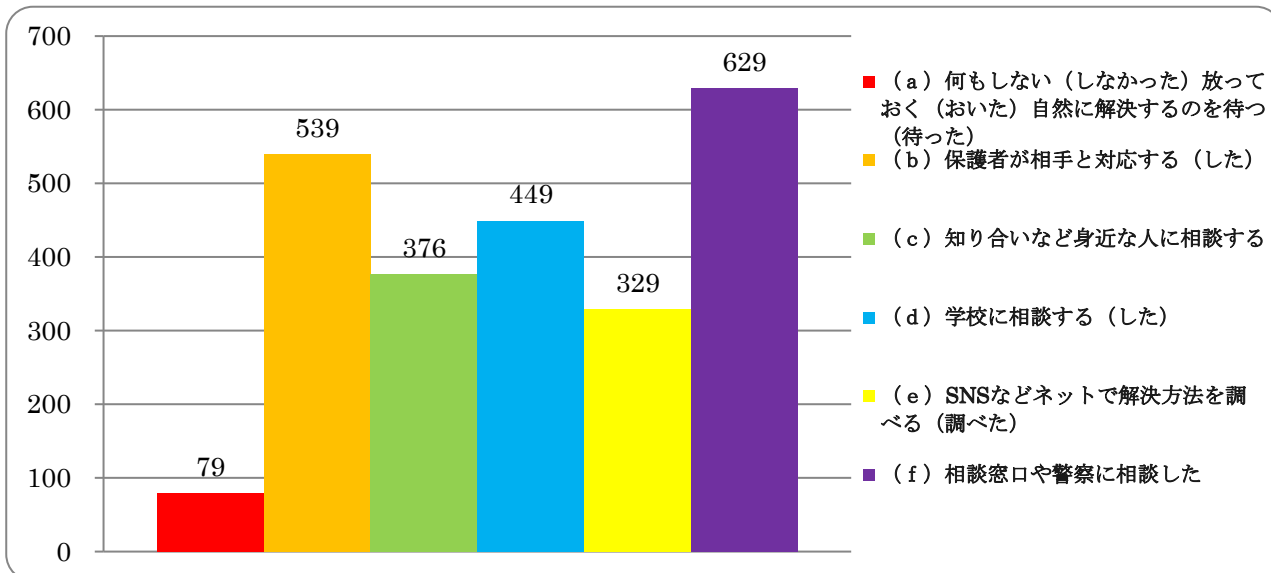
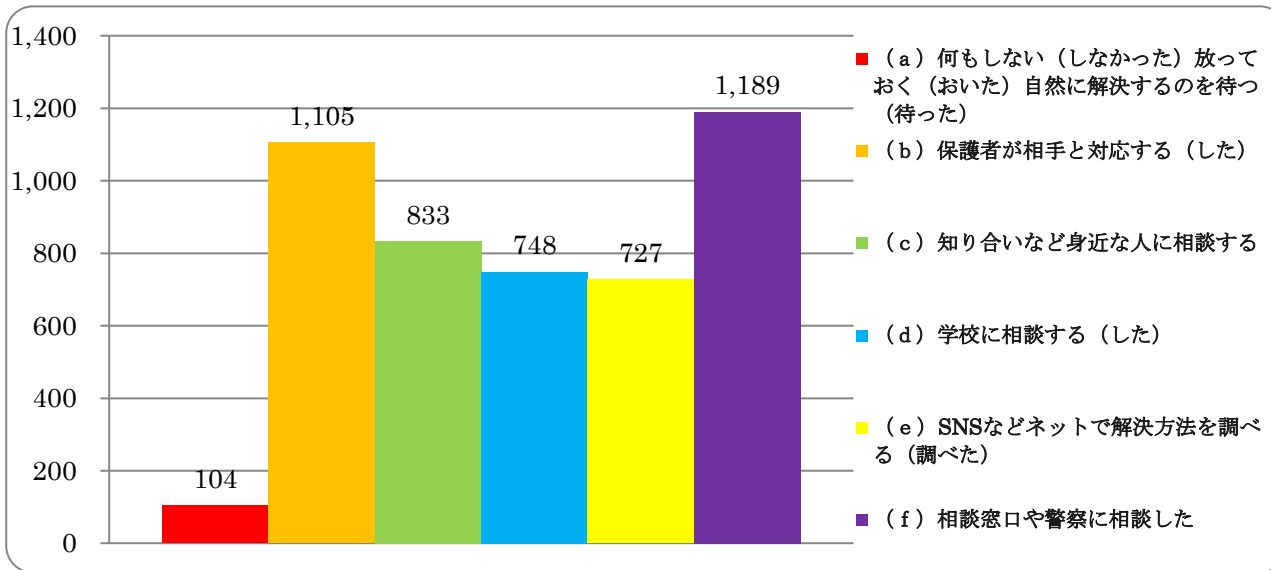
昨年度同様、目への影響を心配する保護者が1番多い。2番目は、使用時間の長さから健康への見えない影響に不安を感じている保護者が多い。3番目に、小学生の保護者では、脳や運動不足を心配していることから、心や体の成長を心配していることがわかる。中学生の保護者は、3番目に、学力の低下をあげており、中学校卒業後の進路選択への影響などを含め、学力への関心の高まりがあることがわかる。4番目は小学生の保護者は、運動不足の原因になることを懸念しており、成長期の児童生徒の体の発達に影響を及ぼすことを不安に感じていることが伺える。また、中学生の保護者の4番目は脳の発達への影響を心配しており、多感な時期の児童生徒に及ぼす脳への影響を考えている保護者がいることが伺える。今後利用時間を含め、親子での話し合いなどにより、また、保護者の姿勢などで、児童生徒たちが納得して電子メディアをコントロールできるようになることが望ましいと考える。

問8 お子様実際にトラブルが起きたことはありますか？（複数回答可）



「(k) トラブルは起きていない」と回答する保護者が、小中学生ともに多かった。オンラインゲームでのトラブルや課金に関わるトラブルに自分の子どもが関わったと認知している保護者は60人以上いる。児童生徒のアンケート結果には、トラブルを経験していることが数字で示されており、保護者と児童生徒との認識に大きなずれがある。学校からの報告では、児童生徒たちはトラブルがあったことを正直に伝えると、親から叱られたり、ゲーム機などを使用禁止にされたりしてしまうことを恐れ、黙っていることが多いようである。児童生徒たちの経験したトラブルの多くは、SNSやネットゲームによるものが多い。また、問題が大きくなってから保護者が知り、解決が難しいケースも多い。児童生徒が、どんなアプリやゲームソフトに触れているのか保護者がしっかりと把握し、十分理解して対応していく事が大切だと考える。

問9 お子様実際にトラブルが起きたらどうしますか（どうしましたか） （複数回答可）



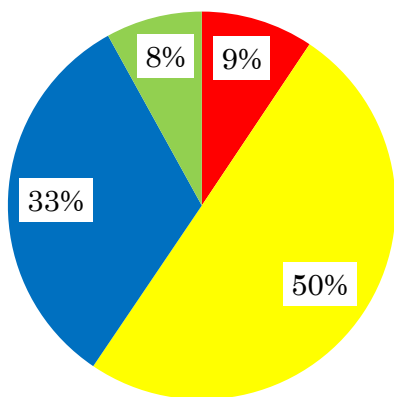
今年度新しく設けた項目である。小中学生の保護者ともに、トラブルがあった場合には、「(f) 相談窓口や警察に相談した（する）」と一番多く回答していた。次に、「(b) 保護者が相手と対応する（した）」と回答する保護者が多く、トラブルが起きた場合には、保護者が主体となってトラブルに対応していることが多く読み取れる。

注目したいのは、中学生保護者の3番目に多い「(d) 学校に相談する（した）」である。小学生に比べ、中学生になると SNS や LINE でのトラブルが増えてくる。これまでのケースとして、本人が投稿した内容、または友達が投稿した内容についてトラブルになることが多い。このような背景を含め、中学校の保護者は、学校に相談し、問題を解決しようとする傾向が多いと考えられる。

多くの保護者が、児童生徒に起きたトラブルを放置せず、様々な方法で児童生徒とともに問題に対応していこうとする姿は、これからの時代を生きる児童生徒たちの支えになる姿だと考える。

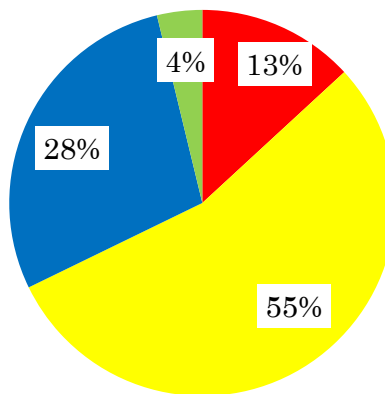
問10 お子様はスマートフォンやゲーム、インターネット等にどのくらい夢中になっていますか？

小学生の保護者



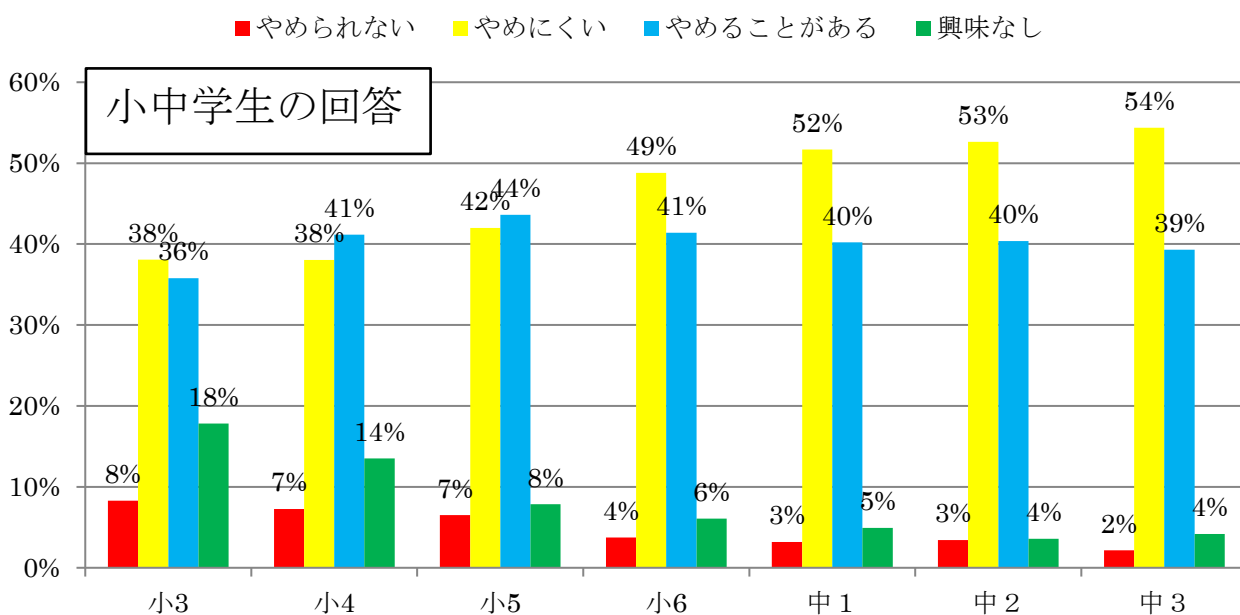
- (a) 夢中になりすぎている。やめられない。注意するとイライラする
- (b) (a)ほどではないが、やり始めるとなかなかやめられない
- (c) やることはやるが、長時間はやらない。夢中にはなっていない
- (d) ほとんどやらない。興味がない

中学生の保護者



- (a) 夢中になりすぎている。やめられない。注意するとイライラする
- (b) (a)ほどではないが、やり始めるとなかなかやめられない
- (c) やることはやるが、長時間はやらない。夢中にはなっていない
- (d) ほとんどやらない。興味がない

小中学生の回答

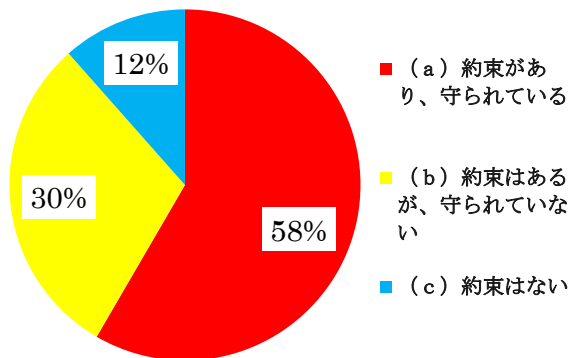


小学生、中学生の保護者ともに、約1割が「(ア) 夢中になりすぎている、やめられない。注意するとイライラする」と回答しており、自分の子どもがネット依存になっている可能性が大きいと感じている。また、「(イ) 夢中になりすぎているではないが、やり始めるとなかなかやめられない」と感じている保護者は、小中学生ともに2%増加しており、約6割がネット依存症予備軍と考えられる。

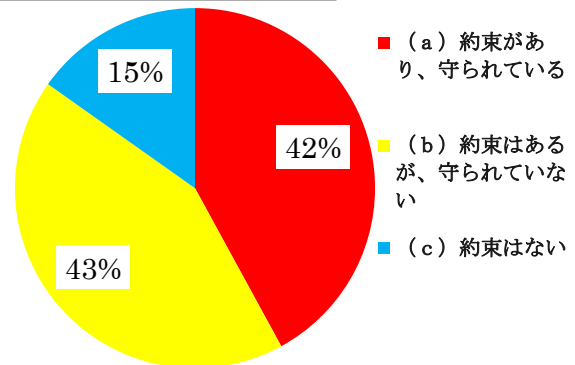
児童生徒たちの回答との比較では、児童生徒は「やめられない」が学年とともに減少し、中学3年生では2%にまでなり、親から見た児童生徒の様子とにずれがある。親が心配するほどには、児童生徒自身は自覚がなく、客観的に自分を見ることができていない児童生徒こそ心配である。一人一台のタブレット端末が配備されたことにより児童生徒が電子メディアに触れる機会が増加している時であるからこそ、自己コントロールしながら機器を適切に使用できる児童生徒を育てる機会を大切にしたい。

問11 お子様のインターネットやゲーム機等の使用について、
家庭での約束があり、守られていますか？

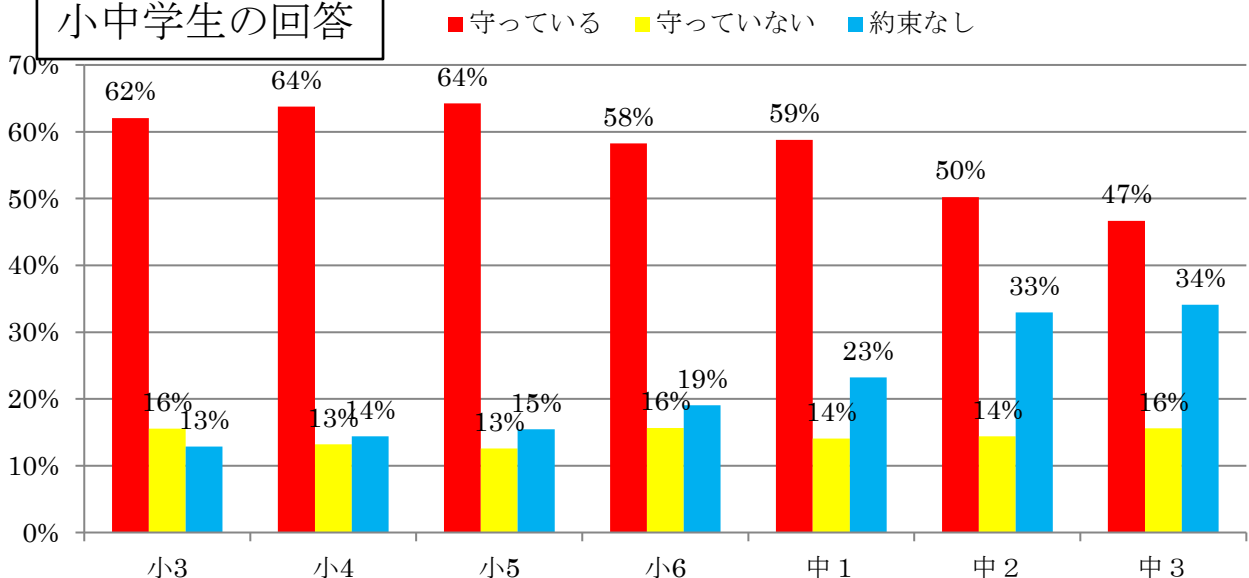
小学生の保護者



中学生の保護者



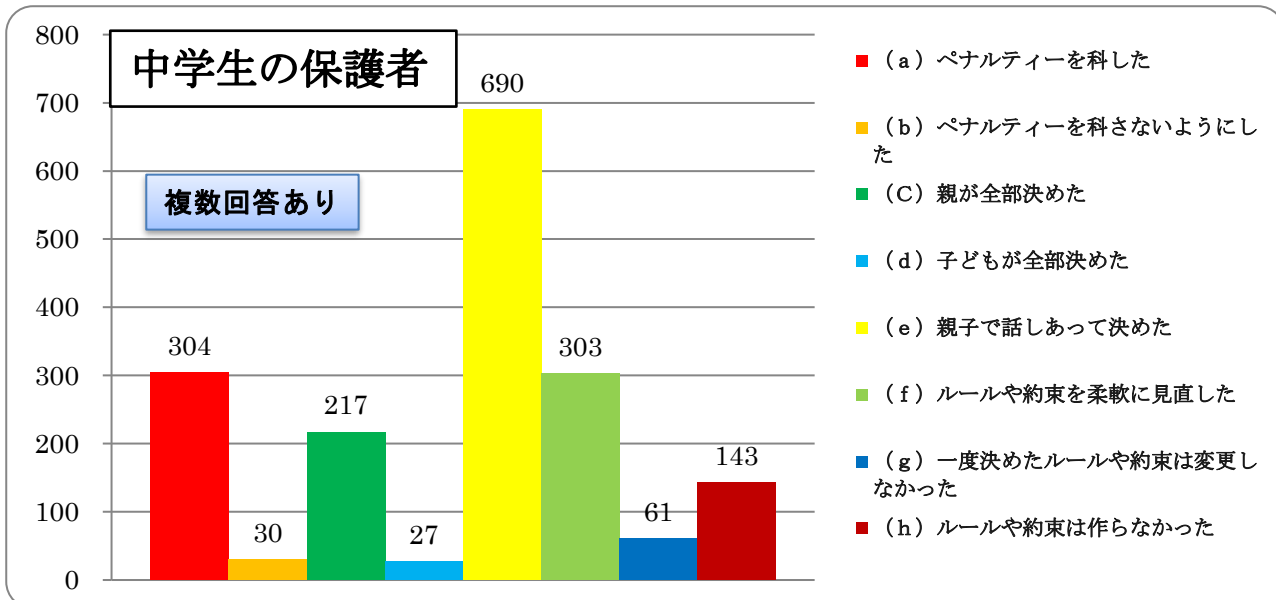
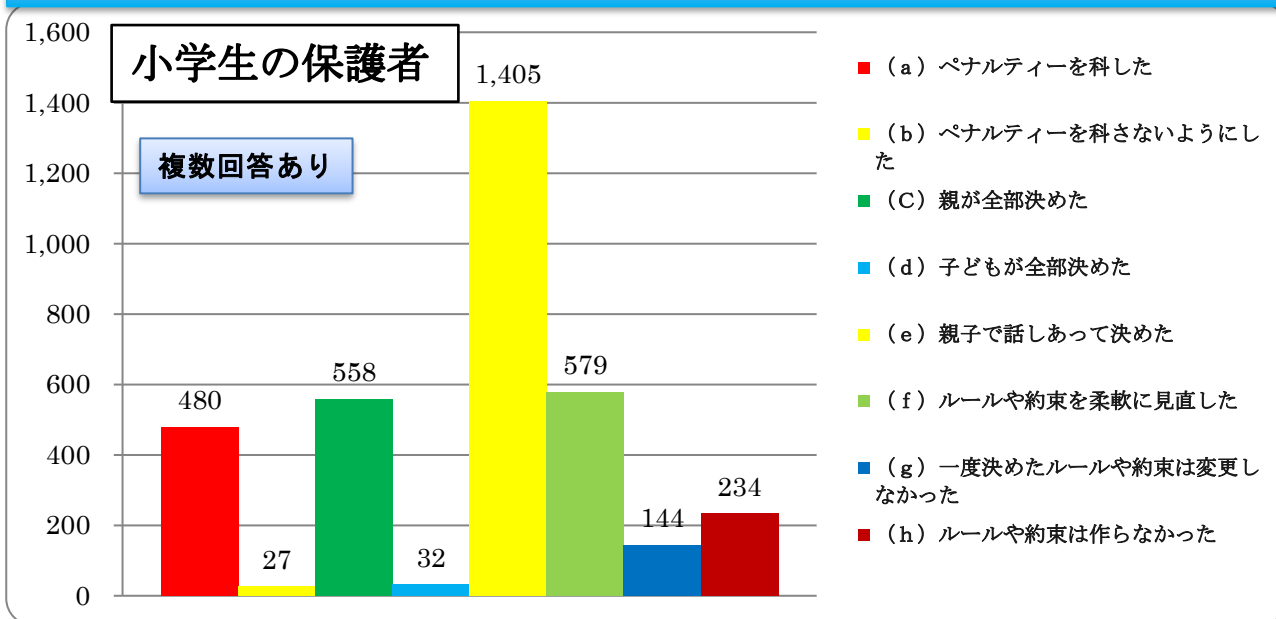
小中学生の回答



小学生保護者の12%、中学生の保護者の15%が「約束はない」と回答しているが、児童生徒たちの回答ではそれを上回る小学生の約14%、中学生の約30%が「約束はない」としており、中学生とその保護者の認識の違いはおよそ2倍となっている。保護者は、約束のもとにスマホやゲーム機等を使用させているつもりであっても、児童生徒たちは「約束がない」ものとしてとらえている。保護者の約3~4割が、「約束はあるが守られていない」と思っているが、児童生徒は「約束を守っていない」が2割弱であり、その差が「約束はない」にカウントされたものと考えられる。必ずスマートフォンやタブレット、ゲーム機等を購入するときに約束があったのだが、使っているうちに「約束がないがごときになっている」という可能性がある。この結果は、ここ数年大きな変化がない。

この認識のずれは、ネット上でのトラブルについての回答の児童生徒と保護者の認識のずれと一致している。児童生徒の使用実態を保護者がしっかりと把握した上で使用する目的や時間をコントロールしていく必要がある。また、児童生徒にスマホやゲームの使い方を任せるのであれば、正しい使い方ができるまで粘り強く向き合い続け、適切に使用することができるようにすることが重要になってくるであろう。

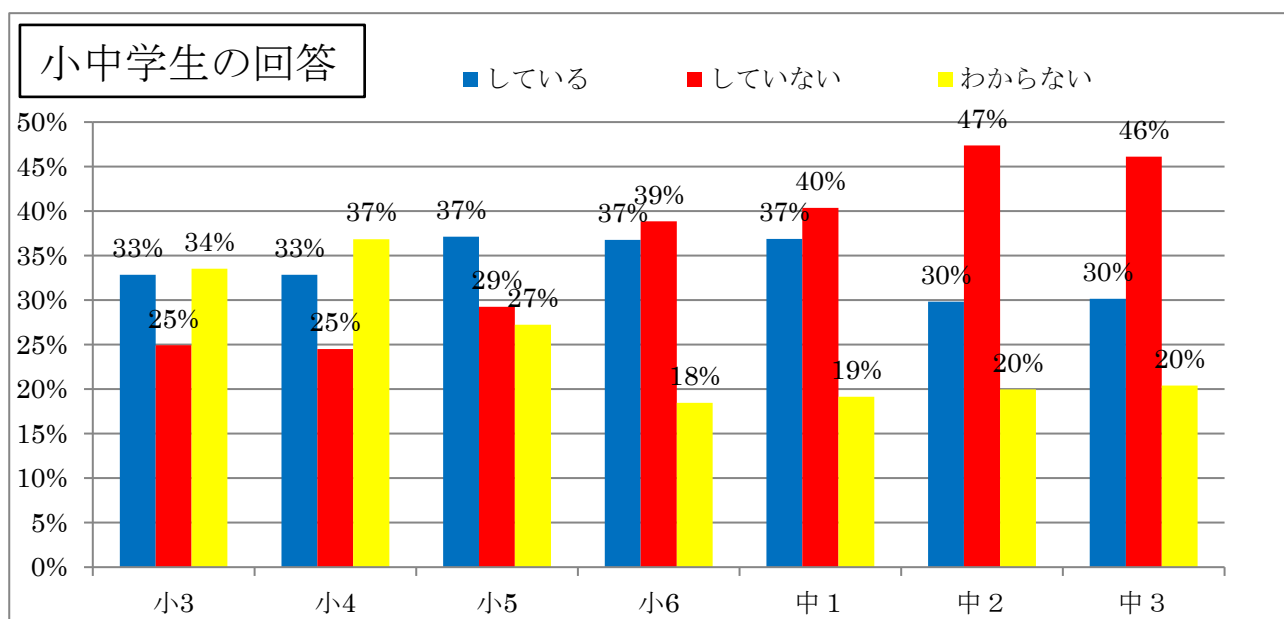
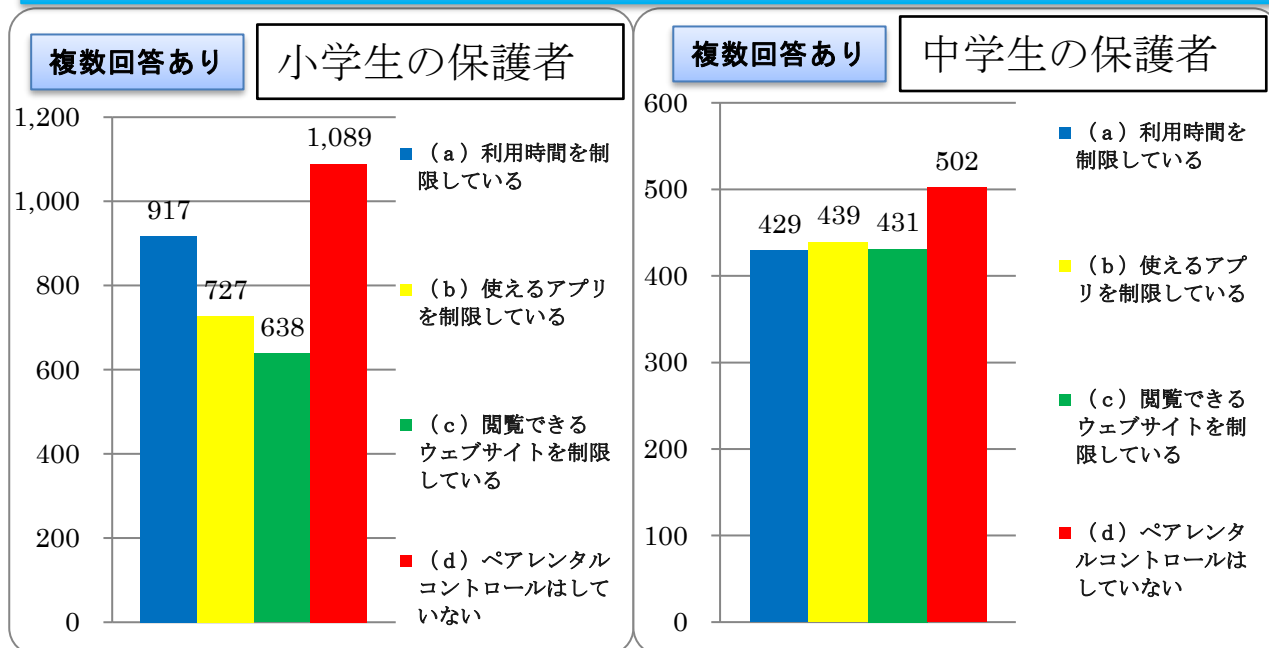
問12 お子様のインターネットやゲーム機の使用において、心がけさせていることや決めていることはありますか？（複数回答可）



小中学生ともに「(e) 親子で話し合った」が多く、スマホやタブレット、ゲーム機等の使用については、保護者が児童生徒と使い方について相談することを心がけているのが読み取れる。それは、前の項目での「約束があり守られている」の回答の多さとつながるところである。次に、小学生の保護者では「(f) ルールを柔軟に見直した」が多く、成長段階や使用状況を見ながら児童生徒との約束を見直している様子が伺える。これにより、保護者がスマホやタブレット、ゲーム機等の使用をコントロールしながら、児童生徒が正しく利用できるように管理していることが伺える。

一方、中学生の保護者では、「(a) ペナルティーを科した」と「(f) ルールや約束を柔軟に見直した」が次に多く、保護者との約束が守れず使用を禁止されたり、使い方について細かくルールを変更されたりしている背景もと考えられる。学年が上がるにつれ、保護者との約束の中でスマホやタブレット、ゲーム機等を使用する児童生徒が減り、保護者の管理下での利用が難しくなる場面も今後予期されるので、よりよい正しい利用方法について情報モラル教育が大切と考える。

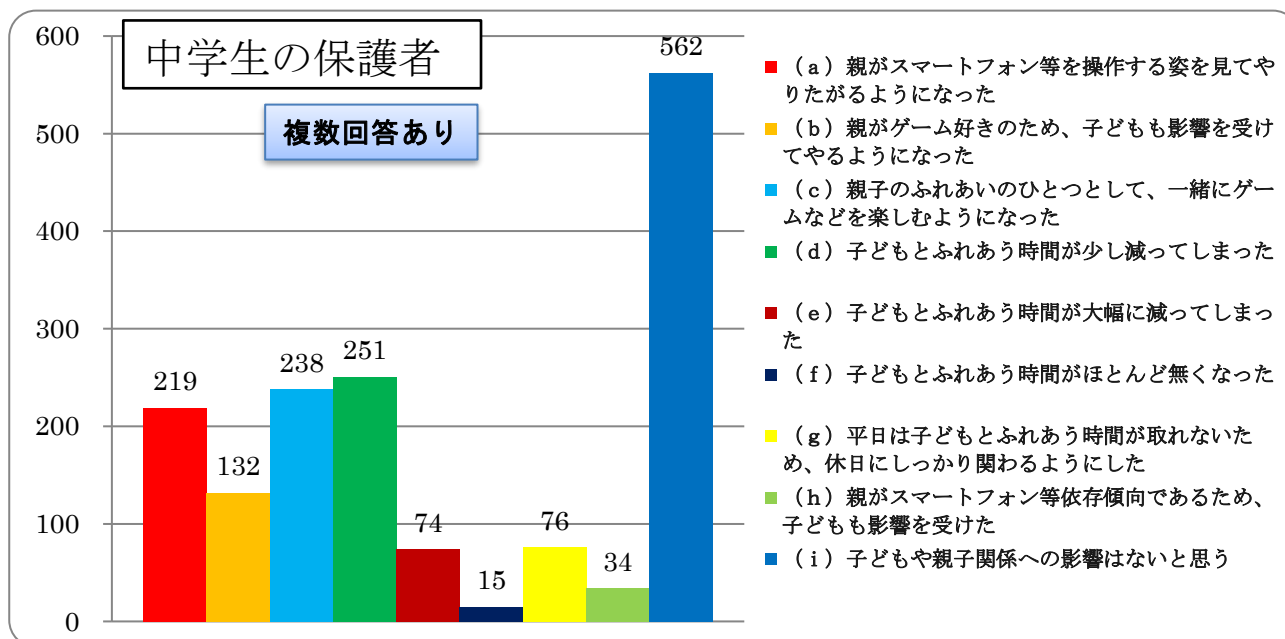
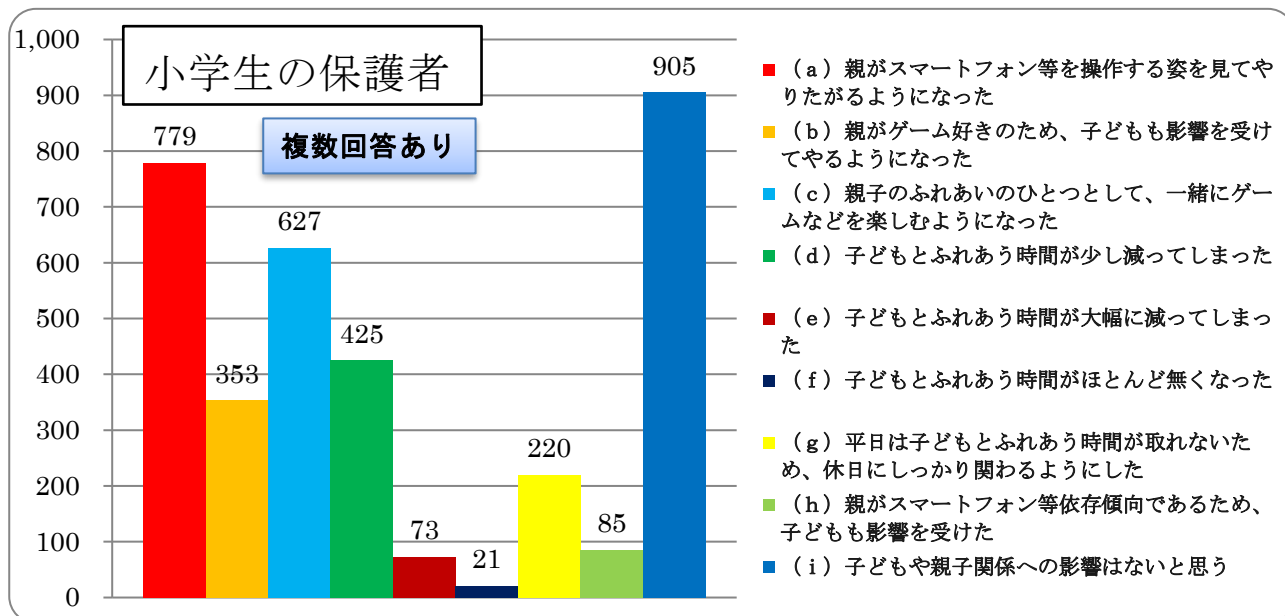
問 1 3 時間制限やアプリの制限など、ペアレンタルコントロールをしていますか？（複数回答可）



小中学生の保護者は、ともに全体の5割以上が何かしらのペアレンタルコントロールをしている。小学生の保護者が「(a) 利用時間を制限している」の回答が一番多く、利用時間制限を行っている割合が高い。中学生の保護者の傾向として「(b) 使えるアプリを制限している」「(c) 閲覧できるウェブサイトを制限している」が多く、時間の制限より、触れる情報に制限をかけていることが特徴的である。小学生は、親がペアレンタルコントロールをしていることを知らない場合があるが、中学生では、親はペアレンタルコントロールしているのに、児童生徒はしていないと感じている子が多く、ペアレンタルコントロールが機能しているのか、児童生徒たちが親の考える範囲内で利用しているために感じないのか、アンケート結果からはわからない。

また「(d) ペアレンタルコントロールはしていない」が小中学生の保護者回答数が多いことから、必要最低限の管理は、保護者の管理下でしっかりと利用について管理し、保護者として児童生徒のために行ってほしいところである。

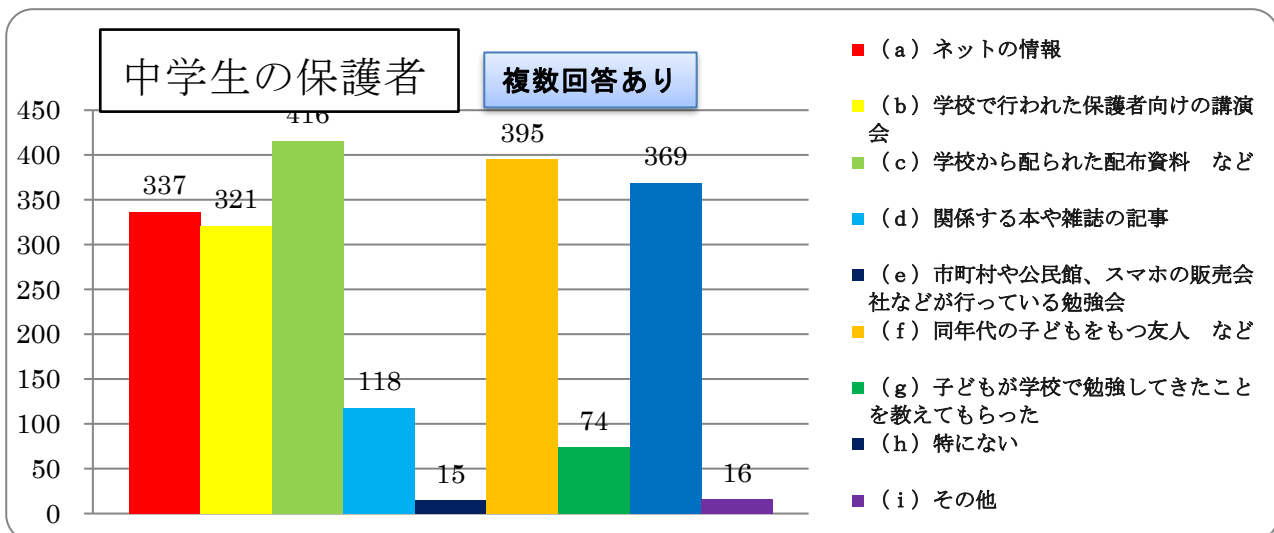
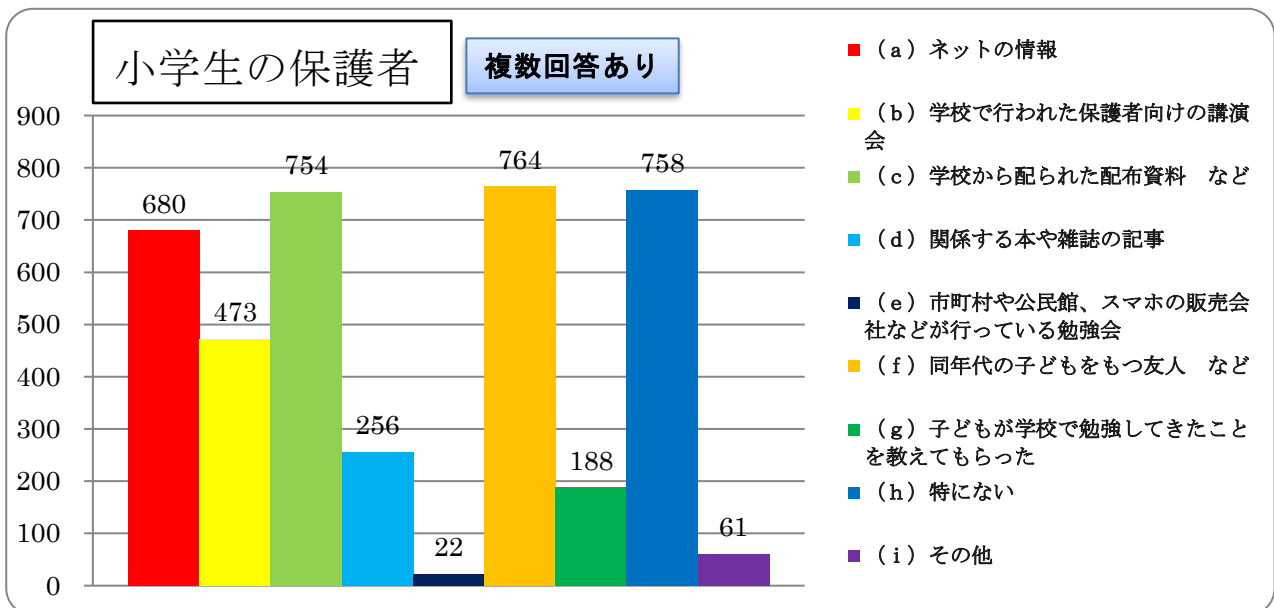
問14 親のスマホ、タブレット、ゲーム機等の使用によって、子どもや親子関係への影響が出ていると思うことはありますか？（複数回答可）



「(i) 子どもや親子関係への影響はないと思う」の回答が、小中学生の保護者ともに最も多い。幼保園では、影響があると感じている保護者が多く、小学生、中学生と数字が上がる。しかし、前出のいくつかの問いから、児童生徒の心や体への影響、使い方等を心配していることから、無関心なわけではないことがわかる。

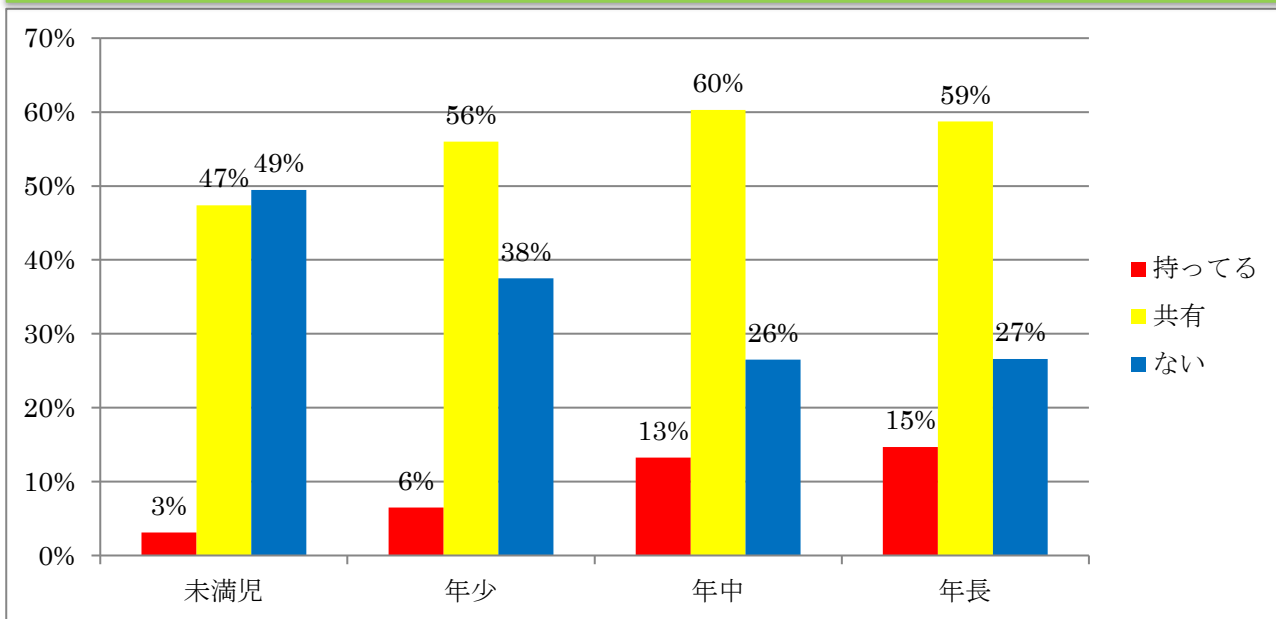
影響があると感じている保護者は、小学生では「(a) 親がスマートフォン等を操作する姿を見てやりたがるようになった」が最も多く、次に「(c) 親子のふれあいのひとつとして、一緒にゲームを楽しむようになった」が多い。中学生では、「(d) 子どもとふれあう時間が少し減ってしまった」が最も多く、「(c)」「(a)」がこれに続き、この傾向は昨年度と同じである。影響を肯定的にとらえる面と否定的にとらえる面の両面があり、よりよい親子関係づくりのためにも、保護者が児童生徒と共に電子メディアを利用する約束を作る姿勢は、親子関係づくりの基本であると考える。

問15 お子様のスマホの利用について考えるときに参考にしたことはありますか
(複数回答可)



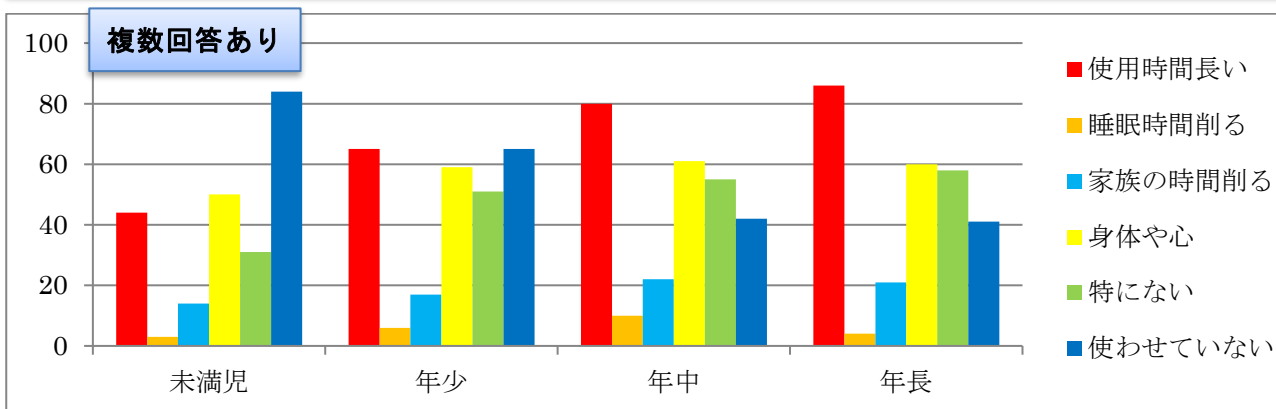
今年度新たに設けた項目である。児童生徒のスマホ利用について考えるときの保護者が参考としているのは、小学生の保護者では「(f) 同年代の児童生徒をもつ友人」が一番多く、続いて「(c) 学校から配られた配布資料など」であり、中学生の保護者では、「(c) 学校から配られた配布資料など」が一番多く、「(f) 同年代の子どもをもつ友人」が続いて多い。このことから、保護者の傾向は2つあり、まずは学校から発信される情報を基に児童生徒のスマホやタブレット、ゲーム機等を利用する正しい環境について考え、家庭での利用環境を整える参考にしていること。そして、同年代の児童生徒をもつ親同士の情報交換も大事な情報となっており、「児童生徒たちが向き合っている情報は、どのようなものなのか」身近なところから聞くこともでき、普段の児童生徒の様子と照らし合わせて考えることにつながっていることが伺える。今後、学校から発信する情報はより確実に保護者に届くようにすること。また、現在に即した最新の情報を学校等を通して、情報の提供を保護者にし、よりよい電子メディアの利用となるように進める必要がある。

問① お子様が使えらるゲーム機や、ゲームができるタブレット（アイパッド等）はありますか？



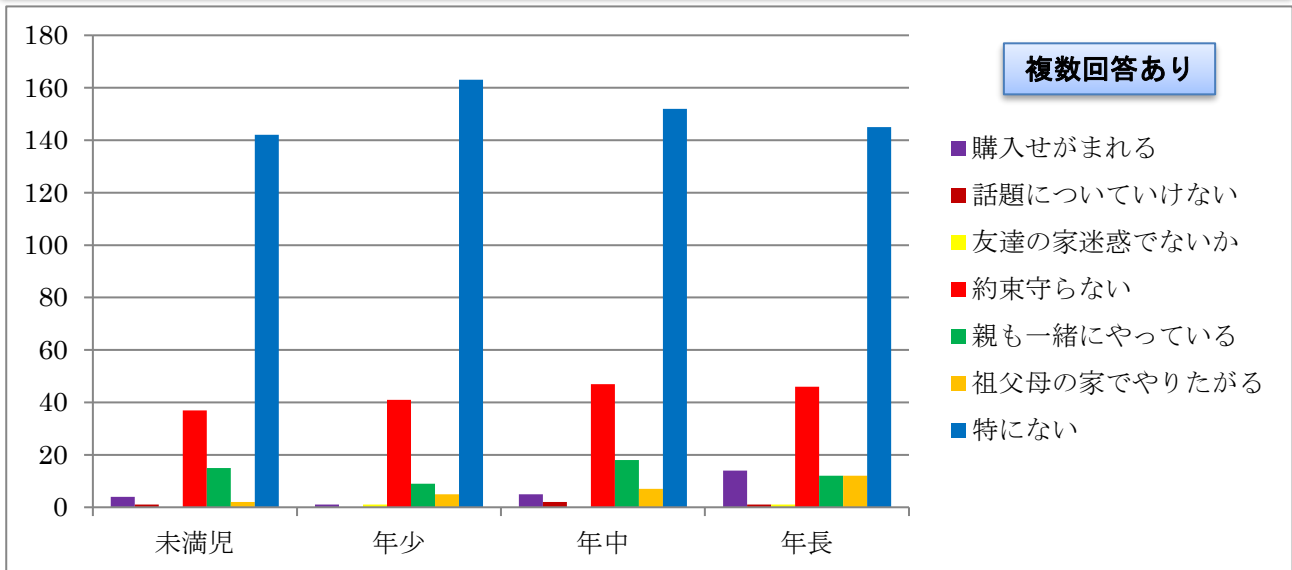
共有で使える園児が多く、未満児で47%である。年少～年長では、「持っている」「機器を共有」を合わせると、6～8割前後の子どもが何らかの形でゲーム機等に触れている状況がわかる。昨年度と比べて、どの年齢もさらに少しずつ増加している。年長の段階では、15%が自分で使えるゲーム機等を持っており、昨年度は9%であったことから、年齢が上がるにつれてゲームに触れる機会が増えている状況である。

問② お子様がスマホ、タブレット、ゲーム機等を使うことについて心配なことはありますか？（いくつ選んでも良いです）



園児がタブレット、ゲーム機等を使うことに関しては、心配なことは「使わせていない」という回答が未満児では多いが、年少から「使わせていない」は年齢が上がる毎に減少している。反して、「使用時間が長い」年少から増え、「使わせていない」が減ることから、年少あたりから園児の使用が増えていくことがわかる。保護者も承知をして使わせていると思われるが、幼少期の電子メディアの使用が心身の成長に悪影響を与えることは事実として証明されており、低年齢からの使用が増えることは、憂慮すべき事態である。また、昨年度同様「身体や心への影響」を心配する項目の人数は高く、電子メディアの心身への影響を心配する様子が伺える。

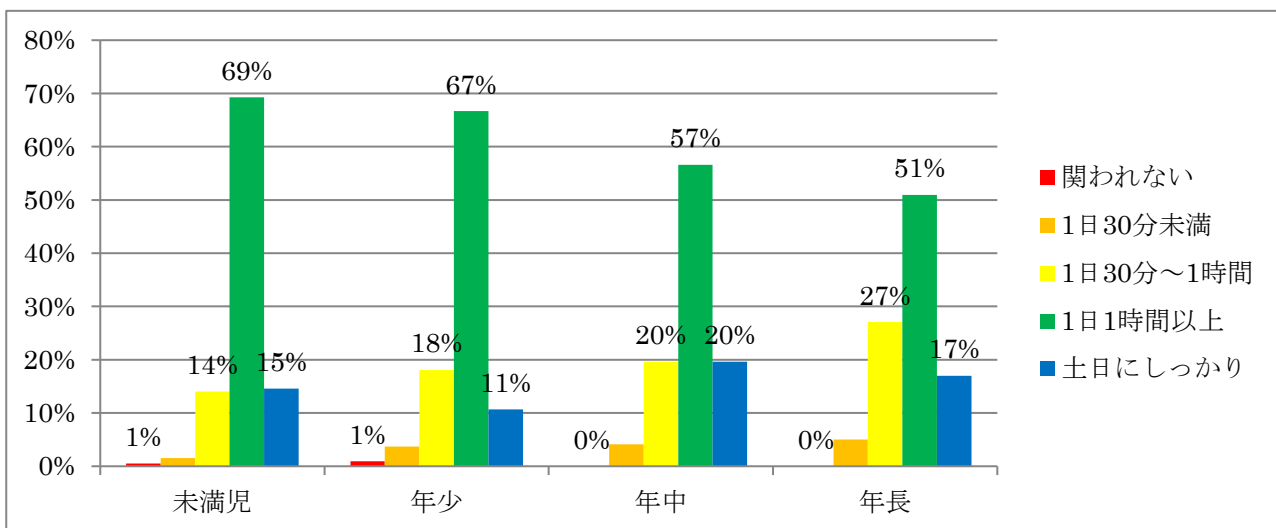
問③ その他、対応に困ることなどありますか？
(いくつ選んでも良いです)



ほとんどの家庭で対応に困ることは「特にない」と回答しており、昨年度とおおむね変わらない状況である。しかし、年中の「約束守らない」の数が多く、昨年度、年少の子どもがそのまま親がコントロールできずに過ごしていることが読み取れる。このことは子どもの成長に関係なく、適切な使用環境を保護者が整える大切さを示唆している。

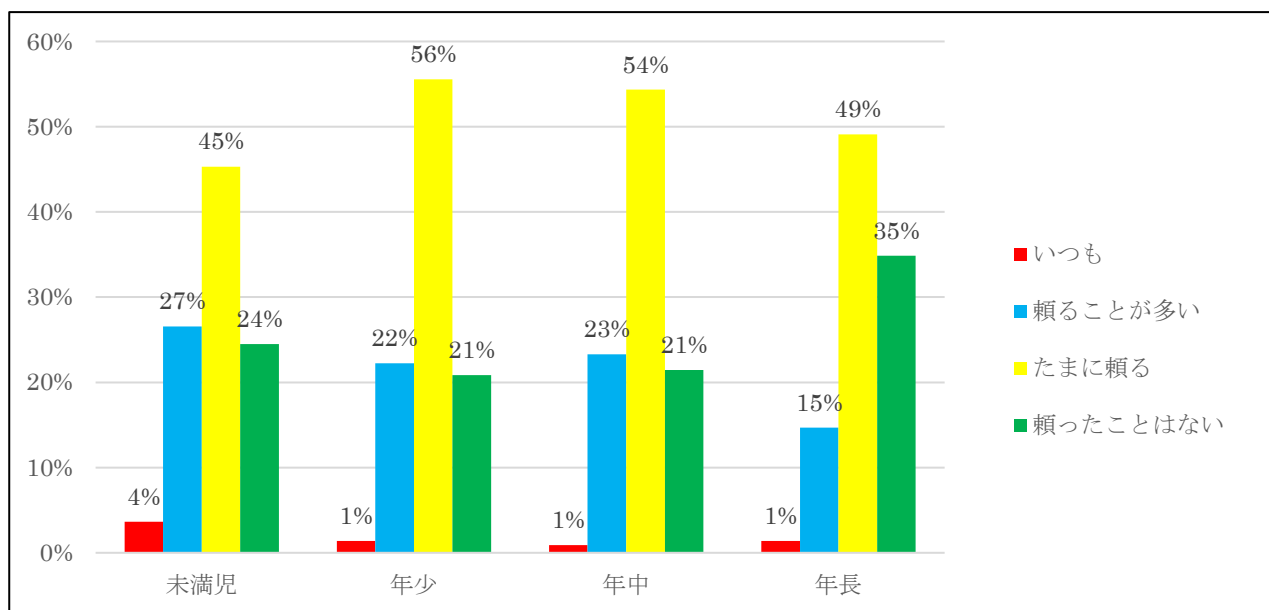
昨年度同様、「親も一緒にやっている」が2番目に多くあげられている。また、3番目の「祖父母の家でやりたがる」も多く、保護者のみならず、祖父母を含めてルールを共通理解して園児が電子メディアに触れる環境を整える必要がある。

問④ 子どもとのふれあいについてお答えください。



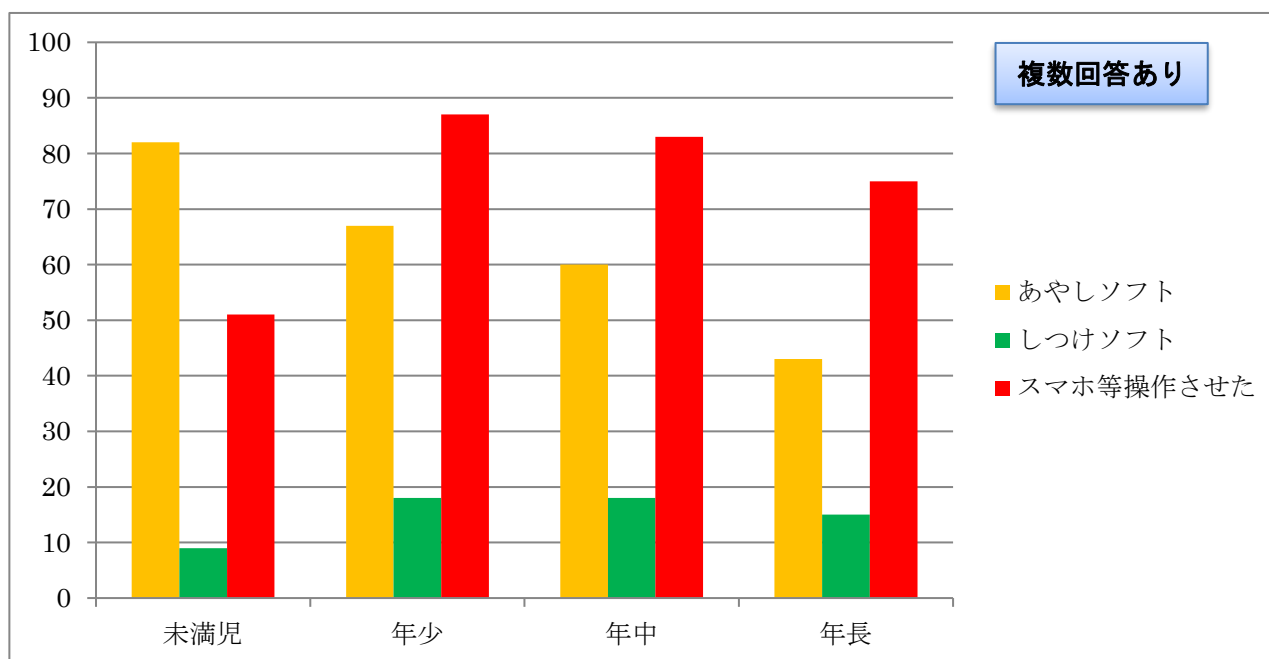
1日1時間以上園児とのふれあいをしている家庭が最も多く、未満児、年少では昨年度より10%近く増えている。30分未満であっても園児とのふれあいの時間を持とうとしている状況が見られる。平日に時間がとりづらい家庭は、土日などの休日にしっかりと園児とふれあう時間を生み出している。昨年度と比べて「関われない」家庭は減っている。保護者が園児とふれあうことは、電子メディアと付き合い方に限らず、子どもたちの人間形成の上で大変重要なことであるので、今後も工夫して行ってほしい。

問⑤ - 1 最近の1年以内で、子どもを落ち着かせたいときや言うことをきかせたいときに、スマホ・タブレットやゲーム機等に、頼ったことはありますか？



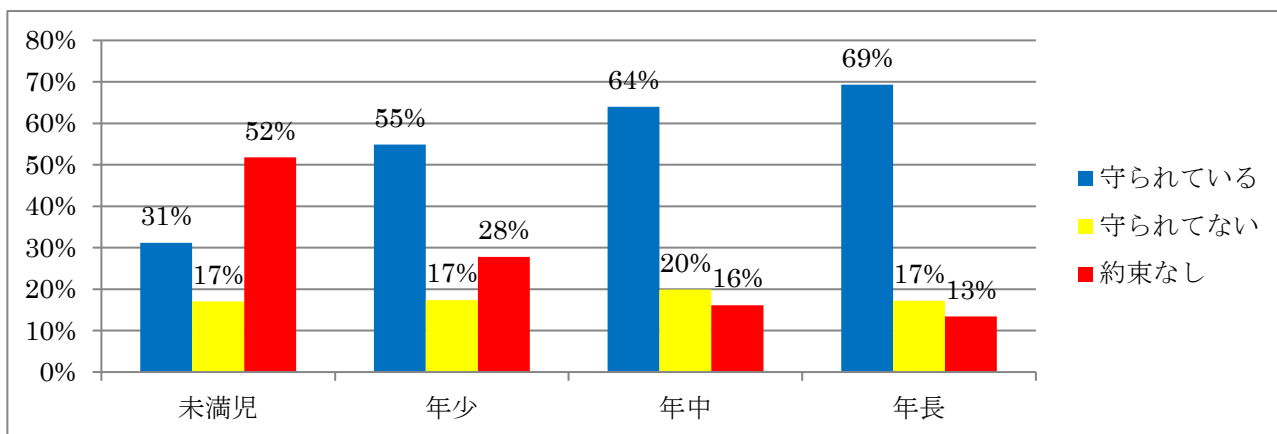
問⑤ - 2

スマホ・タブレットやゲーム機に頼るとき、どんなソフトアプリに頼るか。



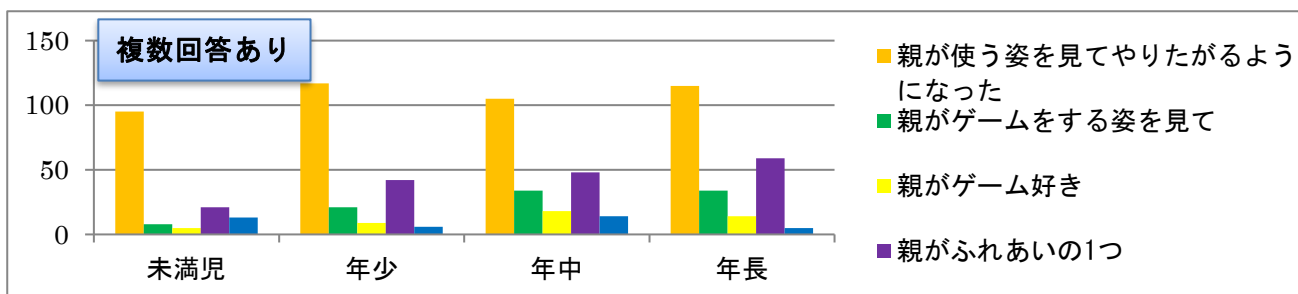
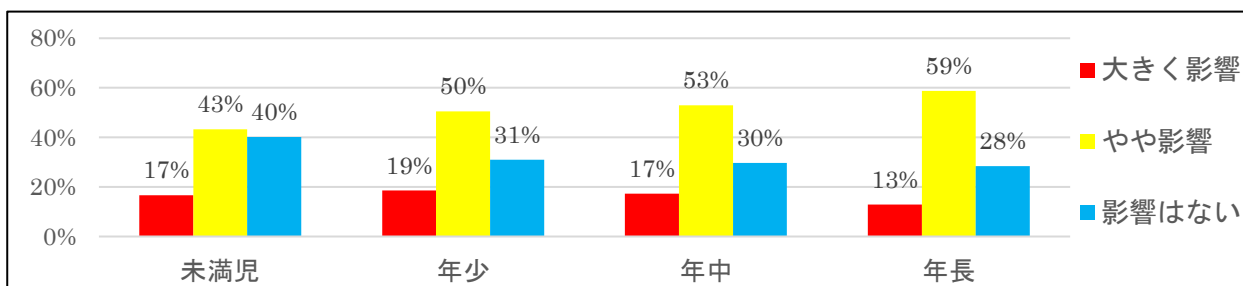
多くの保護者がスマホ・タブレット・ゲーム機等に頼った経験があると回答している。 その中でも「スマホ等を操作させた」が多く、「あやしソフト」が2番目に続く。頼ったことはないと回答した保護者は、未満児、年少、年中では20%以上、年長で35%年齢が上がるにつれて、スマホなどの機器に頼らずに対応する保護者が増えていることがわかる。「スマホ等操作させた」は年少が最も多く、動画などに興味関心をもって夢中で見入ることや操作させても危険な使い方につながらないと考えることから、おもちゃ感覚で操作させている背景も伺える。

問⑥ タブレット、ゲーム機を使うときの子どもとの約束はありますか？
※使用しているお家だけ教えてください。



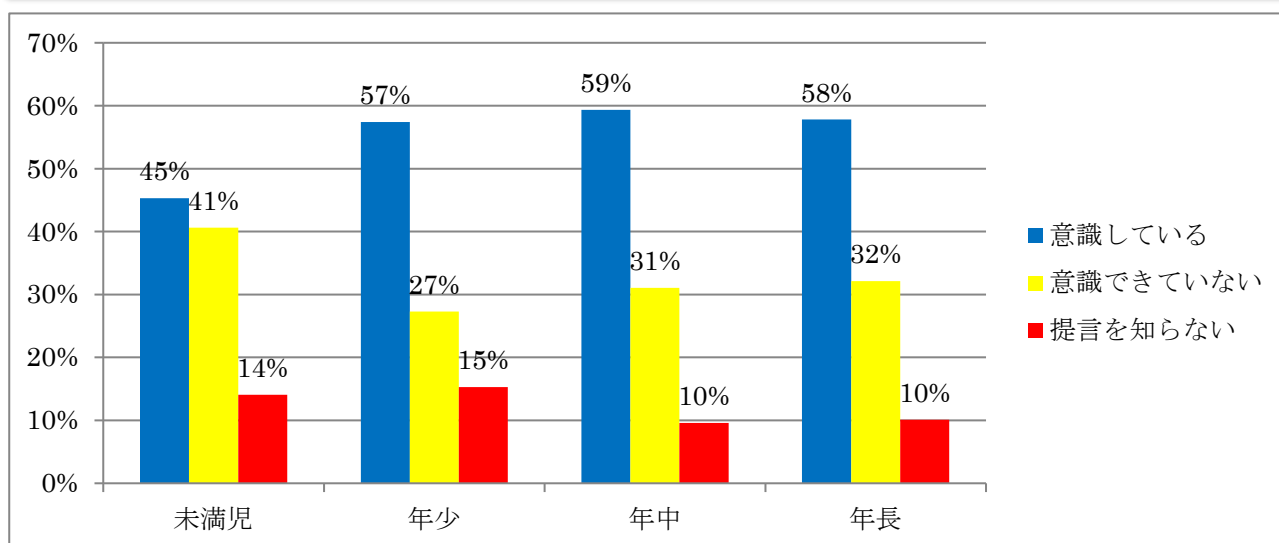
全体の傾向としては、ここ数年大きく変わっていない。「約束が守られている」は根年齢が上がるにつれて増加しており、ルールを理解して利用している様子が伺える。「約束なし」は、未満児で一番多く、多くは保護者が管理して利用させている状況だと考える。その中であって、未満児のうちから約束があっても「守られていない」園児が17%いることから、未満児が約束を理解してゲーム機等を利用すること自体が難しいことも考えられるため、保護者によるコントロールは大事であると思われる。

問⑦ タブレットやゲーム機等の使用について、親から子どもへの影響が出ていると思いますか？



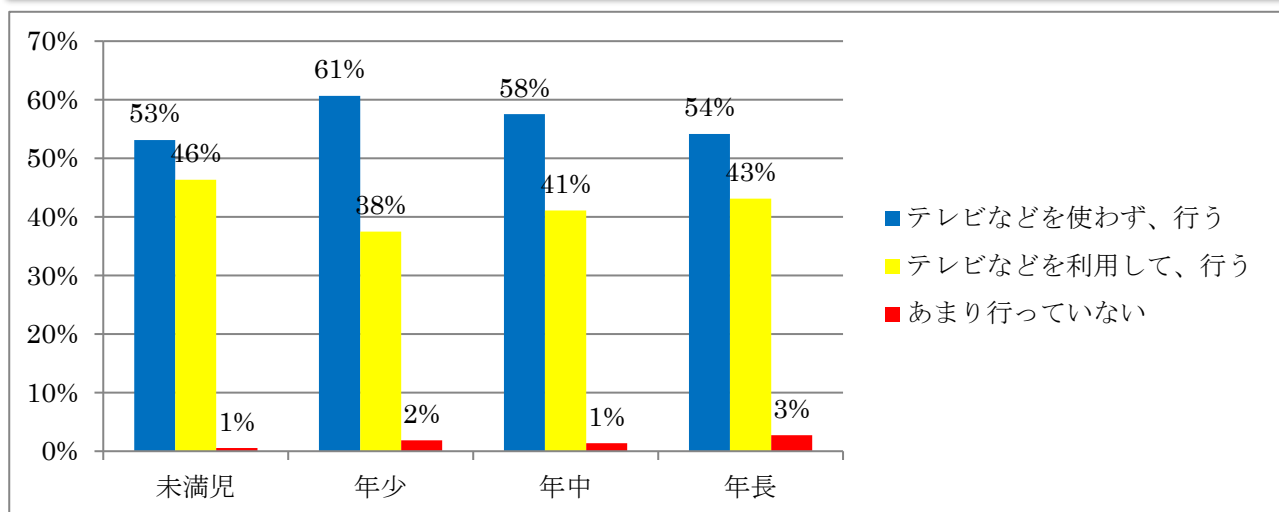
6～7割の保護者は、親から園児への影響があると考えている。「親の使う姿を見てやりたがるようになった」と回答している保護者も未満児から年長でも一番多く、園児への影響を実感している保護者が多い。また「親子のふれあいの一つ」と考えている保護者は2番目に多いことから、肯定的にとらえている保護者が増えていると考えられる。保護者自らの使い方が、園児に対してどのような影響があるのか折に触れて考える機会が必要ではないかと考える。

⑧ 小児医学会の提言による、幼少期の子どもの電子メディアにふれる時間と目への影響について意識したことはありますか？



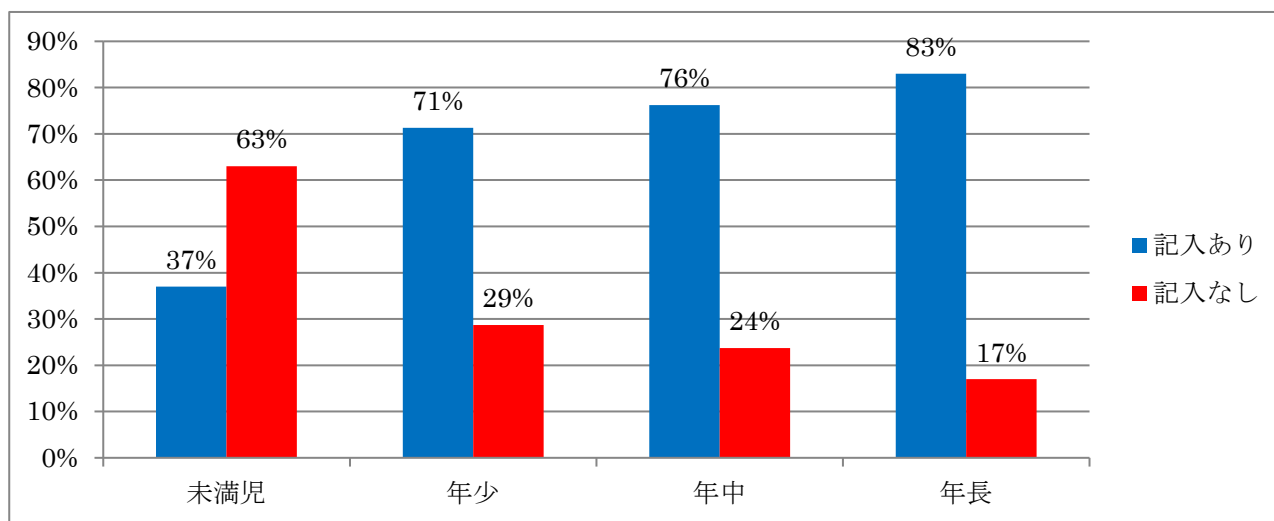
今年度、新たに「提言を知らない」の回答項目を加えたところ、10～15%の保護者が「提言を知らない」と回答している。今後も、電子メディアの長時間使用による幼児期の園児への心や体への悪影響について、日本小児科医会などから発信されている内容などを、保護者にさらに周知できるように発信し続けていく必要がある。8割以上の保護者が目への影響を知りながら電子メディアを子どもに利用させていることから、電子メディア使用の大人の心身への影響と子どもへの影響とは、大きく違いがあることを認識し、特に乳幼児期に電子メディアに接触することの問題の大きさを、大人が理解する必要がある。

問⑨ 食事の時などに、テレビや電子機器の利用などに限らず、親子の対話やふれあいを行っていますか？



親子のふれあいについて、ほとんどの家庭が、食事の時などに意識を持って実践しており、大切に考えている状況がみられる。テレビなどを使わずにふれあいを行っている家庭が全体の6割前後を占め、子どもとの会話などを大事にしている様子が伺える。また、3～4割の家庭では話題のきっかけや材料としてテレビなどを利用し、共通の話題を作りながら親子での時間やふれあいの機会をつくっていると考える。

問⑩ お子さんの将来のゆめは何ですか？親子で話し合ってみてください。



今年度、将来の夢の記述の中に「youtuber」になりたいと考えている年中、年長の園児の中に数人いた。日頃から「youtube」などのインターネット上の動画に興味をもって閲覧していることが伺える。未満児は、「将来のゆめ」という概念をまだ持てない子が多いのかも知れないが、年少になると約7割が、年中、年長では8割以上が、「将来のゆめ」について親子で話し合うことができている。なお、「記入なし」であっても、話し合ったけれどまだ具体的に「ゆめ」を持つところまで行かないというケースも考えられ、今後、このような話題を親子で持つことも大切なふれあいの機会となっていくと考え、子どもの将来について考えていく機会にもつながると思われる。

<多かった回答>

警察官、ケーキ屋さん、youtuber、消防士、プリキュア、お医者さん、プリンセス、仮面ライダー、看護師さん、花屋さん、パン屋さん、電車（新幹線）の運転手、アイス屋さん、アイドル、保育園の先生、お姫様、サッカー選手、自衛官、ドーナツ屋さん、お母さん 他